

越後妻有アートトリエンナーレ 2006

第3回大地の芸術祭 総括報告書



2006年11月

大地の芸術祭実行委員会

【目次】

本書の位置づけ	・・・・・・・・・・ P 1
第3回展を総括するにあたり	・・・・・・・・・・ P 2

I 期待された開催効果に対する総括

1. 交流人口の増加	・・・・・・・・・・ P 3
2. 地域コミュニティ	・・・・・・・・・・ P 5
3. 新潟県内における経済波及効果	・・・・・・・・・・ P 6
4. 「越後妻有」の情報発信	・・・・・・・・・・ P 7
5. 来訪者の評価・地元の評価	・・・・・・・・・・ P 7

II 主要な取組に対する総括

1. 作品制作・展示・管理、ステージ	
(1) 作品制作・展示・管理	・・・・・・・・・・ P 8
(2) ステージ	・・・・・・・・・・ P 9
2. イベント	・・・・・・・・・・ P 9
3. 受入	
(1) 交通システム	・・・・・・・・・・ P10
(2) 宿泊	・・・・・・・・・・ P12
(3) グッズ制作・販売	・・・・・・・・・・ P13
(4) トリエンナーレセンター・駅案内所・こへびステーション	・・・・・・・・ P13
4. 案内	
(1) 広報宣伝	・・・・・・・・・・ P14
(2) サイン看板	・・・・・・・・・・ P14
(3) 印刷物	・・・・・・・・・・ P15
5. パスポート	
(1) 販売	・・・・・・・・・・ P15
(2) チェック体制	・・・・・・・・・・ P16
6. サポーター・地元ボランティアとの連携	・・・・・・・・・・ P17
7. 実施事業費	・・・・・・・・・・ P18
8. 住民理解・住民参加	・・・・・・・・・・ P19
9. 組織・体制のあり方	・・・・・・・・・・ P21

III “越後妻有アートトリエンナーレ” 10年間を振り返って

・・・・・・・・・・ P22

IV 次回に向けて

・・・・・・・・・・ P23

■参考資料 第3回大地の芸術祭 各種データ

・・・・・・・・・・ P25～50

- (1. 交流人口に関するデータ、2. 交通システムに関するデータ、3. サイン看板に関するデータ、4. 広報関係・視察・ツアー、5. 主な国県事業、6. ポケットパーク作品（県支援事業）一覧、7. パスポート等販売実績表、8. 作品・イベント一覧表、9. アンケート結果、10. 10年間のデータ、11. 越後妻有アートネックレス整備事業・ソフト事業費実績調べ、12. 越後妻有アートネックレス整備事業・ハード事業費実績調べ、13. 大地の芸術祭に係る国・県の事業一覧、14. ステージ施設利用者調べ、15. 大地の芸術祭ステージ・恒久作品維持管理費調べ)

越後妻有アートトリエンナーレ 2006

第3回大地の芸術祭 総括報告書

本書の位置づけ

大地の芸術祭は、新潟県が提唱する「里創プラン推進事業」で地域指定を受けた“越後妻有アートネックレス整備構想”の中核事業である。これまで、十日町圏域2市町（十日町市と津南町、合併前の2005年3月までは、十日町市・川西町・津南町・中里村・松代町・松之山町の6市町村）と新潟県とで、連携を図りながらこの事業を推進してきた。

2000年の第1回展は、アートを地域振興の手法とする斬新さへの注目と、その効果への疑問が相半ばした状況のもと開催された。地域住民の理解・協力の面で課題を残したものの、所期の目的である「交流人口の増加」「地域の情報発信」「地域の活性化」の点などで一定の成果は収めた。

次の2003年の第2回展では、準備段階から住民に幅広く意見を求めながら進め、参加アーティストらによる地域の文化・歴史・慣習等を尊重した丁寧な対応があったほか、前回みられなかった各エリアのステージ作品や中心市街地・各集落での独自の展開もあり、早い段階からの準備・取組が奏功した。

今回の第3回展の開催にあたっては、これまでの課題を十分踏まえつつ準備を進め、結果として、新たな作品数は205点に上り、既設作品129点と合わせて334作品が鑑賞可能など過去最大規模で行なわれるとともに来訪者数も過去最高を記録した。

本書総括は、会期中に携わった市と町の担当課のほか、新潟県、各ステージ、東京事務局、地域の参加者、来訪者からの声、効果調査等を基に作成した。今回の開催効果を客観的に見つめるとともにこれまでの10年を振り返り、今後の方向性についても言及した。これらの視点から芸術祭を検証し、併せて今後の活動の指針に供するものとした。

2006年11月

大地の芸術祭実行委員会

第3回展を総括するにあたり

第3回展は、前回展まででない3つの相違点を合わせ持ち、これまでの目的の達成度と今後の継続性を検証するうえでいずれも大切な過程や側面であるため、ここで触れておきたい。

まず一つは、今回芸術祭の準備に奔走し始めた2004年10月に起きた中越大震災と、その後2年続いた豪雪による自然災害が挙げられる。震災の被災当時、越後妻有の地域は建物や道路等の損壊をはじめ、田畑や水路などの農業基盤施設や芸術祭の作品自体も大変な損害を被ったうえ、予見できない自然の猛威に脅えながら避難所生活を強いられるなど、何よりも住民が受けた精神的・肉体的ダメージは深刻であった。しかしながら全国から寄せられた励ましの声や支援により、また雪国という環境で培われた忍耐力により、住民は復興への道のりを実直にたどり続け、今日に至ることができている。第3回展はいわば、大きな支援を当時寄せてくれた全国の皆さんに対して、越後妻有が復興を遂げつつあることを発信する大切な機会であった。励ましの中には、それまでの芸術祭で生まれ育まれた交流によるものあり、後ほど詳述することにした。また今回展の開催準備については、3回続いた大規模な自然災害による物理的な作業の難航だけではなく、住民の心情への配慮からあえて中断した経過もあり、結果として準備が半年あまり遅れることにはなったが、一部の遅れはあったものの会期前にほぼ準備を終えたうえ、これまでを上回る規模で臨めたことは特筆される。

もう一つは、首都圏の企業人らによるサポートチーム“おおへび隊”の存在である。それまで大地の芸術祭の開催費用の多くは公費でまかなわれてきたが、逼迫しつつある地方財政の状況から必然的に制約を受けるため、日本はもとより世界に発信して評価を受けようとするには開催規模と内容がやや不十分であった。このため、今回展がより高い評価を得るように資金面で充実を図ろうと奮闘したのが“おおへび隊”であり、結果として目標を企業協賛などで確保できたが、何よりの成果は芸術祭の今後の継続について一定の可能性を示したことであることから、ここであらためて感謝申し上げたい。

さらに一つは、今回展の役割と意義である。大地の芸術祭は当初から「3回まで開催する」としつつ4回展以降についてはこれまで示さなかったため、その成否が今後を方向づける重要な役割が託された回であった。また、「アートを使って地域の魅力を増していく」という芸術祭が所期に掲げた狙いが、予定した3回を経ていかに昇華するか、芸術祭自体の意義を問う重要な回でもあった。

上記の、“自然災害”“おおへび隊”“役割・意義”の3つを踏まえながら検証を進めたうえで、Ⅲ章の「越後妻有アートトリエンナーレを振り返って」でいったん整理をし、続く最終章「次回に向けて」で今後の方向性を示して結ぶこととする。

I 期待された開催効果に対する総括

1. 交流人口の増加

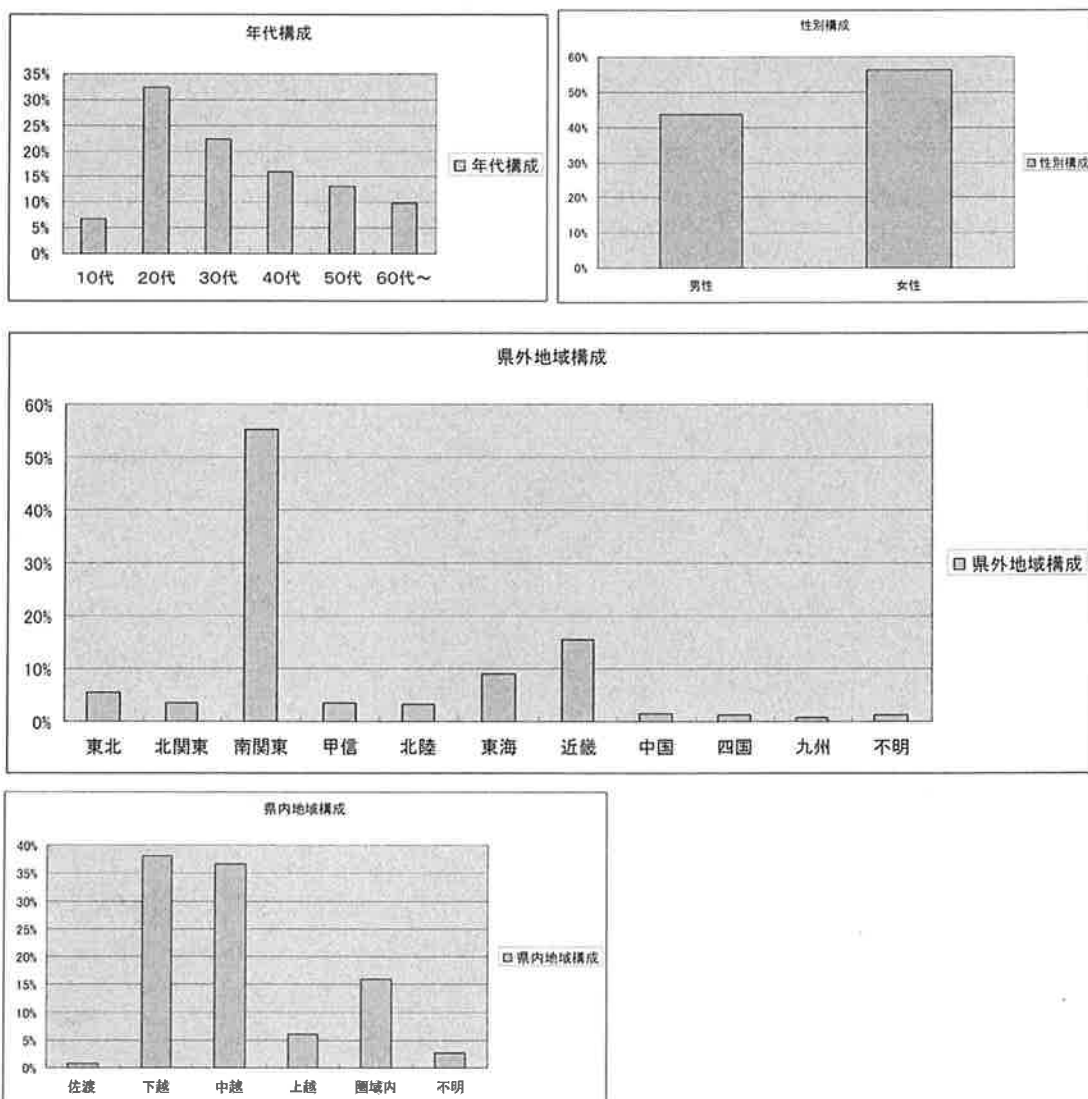
①芸術祭期間中の来訪者は 348,997 人(作品鑑賞者数及びステージ入館者数 334,505 人、イベント参加者数 14,492 人)を数えた。前回(205,100 人)比 70%増、前々回(162,800 人)比 114%増となり大幅な集客増となった。当初の集客目標 25 万人を約 40%上回る結果となった。

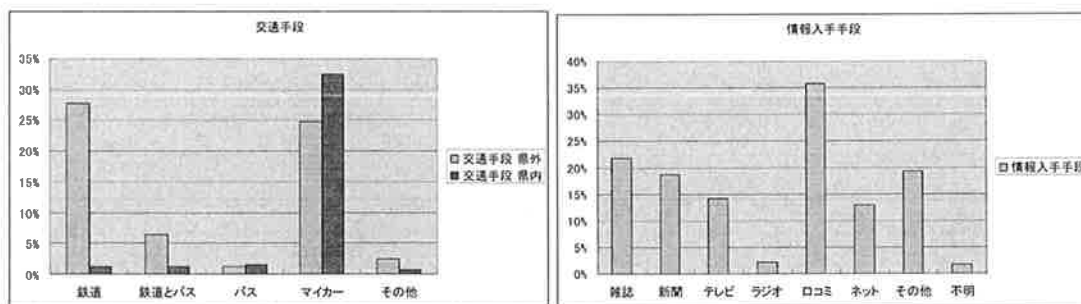
②会期中に寄せられたアンケート、パスポート販売などから、来訪者の特徴、集客数を押し上げた理由について以下のように分析する。(会期中、各案内所に設置した経済波及効果アンケートによる有効回答数 403)

◇来訪者の特徴(行動パターン含む)

a. アンケートでは、次のような傾向であった。

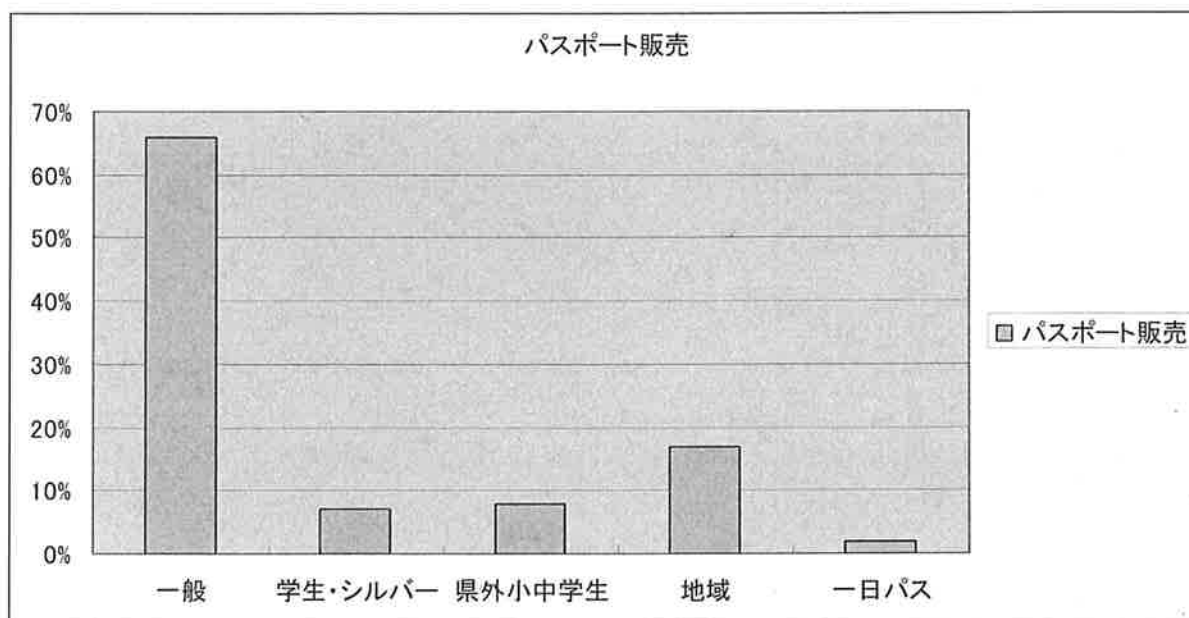
20 代が約 3 割を占め、男女比では女性が若干多かった。県外地域構成では、南関東が過半数を占めた。県内地域構成では中越、下越が約 4 割ずつであった。交通手段別では県内外の合計でマイカーが約 6 割、鉄道が約 3 割であった。情報入手手段別では口コミが約 3 割、次いで雑誌、その他、新聞、テレビであった。





b. パスポート等の販売状況では、次のような傾向であった。

パスポート販売実績は 62,800 枚であった。主な内訳は一般パスポートが 41,203 枚で約 66%、地域パスポートが 10,492 枚で約 17%であった。そのほかに個別鑑賞券 37,972 枚の販売実績があった。



※このグラフではパスポートの購入者の内訳についてグラフ化したため、個別鑑賞券、県内小中高生の無料パスポートは除く。

c. 会期当初は来訪者の出足はほぼ順調にスタートし、梅雨明け後 8 月第 1 週の土日頃から客足がさらに増えていき、お盆から 9 月第 2 週にかけて各地で記録的な入込者数となった。

◇集客数を押し上げた理由

- 里山の自然と現代アートが融合した作品や地域に根ざした作品をはじめ、空家プロジェクト、願入陶芸村や小白倉いけばな美術館の作品、あるいは直接触れることのできる作品等が来訪者の印象に強く残り口コミで評判が広がっていった。
- 前回展のリピーターや再来訪によるリピーターが増え、芸術祭が定着してきた。
- 会期中盤からテレビや新聞等で取り上げられた作品を中心に人気に拍車をかけた。
- 臨時列車の運行やツアーバスの毎日運行、安価な日帰りバックツアーやタクシーコースの設定、レンタスクーターの導入等により交通手段の利便性が増した。
- 県内小中高生の無料パスポート引換券の配付により、保護者等の来訪にもつなが

ったものと思われ、学校等の団体の来訪者が増えた。

f. ホームページの刷新とタイムリーな情報提供を図った。

g. 旅行エージェントによりツアーの商品化が図られた。

h. ボランティア・サポーターの努力や地域住民の温かさ・気さくな雰囲気。

i. 民間事業者や関係施設からパスポート販売等で協力を得ることができたほか、来訪者の歓待などの、地域・集落の主体的な取組みが奏功した。

③交流人口の増加はとても重要であるため、上記の理由を踏まえながら、今後さらに増加・拡大するよう努めていく必要がある。

2. 地域コミュニティ

①作品制作をはじめ、公式イベントや協賛イベントの企画立案への住民の参加は、地域コミュニティの醸成に資するものと思われる。ただ、それらは成果として重要であるにもかかわらず客観的に捕捉できないため、効果検証が困難でもある。

②しかしながら地域にとってはある意味で、多くの可能性をもたらし得る先行投資として捉え、今後さらに醸成を図るとともに住民の理解が一段と増すよう取り組んでいかなければならない。

③今回、地域コミュニティに関する事例としては、以下のことが特記される。

◇集落あがての作品制作や協力、アーティストや来訪者の受入と交流、関連するイベントの実施。

◇固有の文化・歴史を編さんするなど、地域を再発見。

◇かつての伝統行事を復活させ、地域文化を再興。

◇参加アーティストのゼミ生と地域の子ども達とで、神輿の共同制作を通して地域間・世代間交流。

◇地区振興会などによる自主的な案内所や休憩所の設置。

◇上記のほか、集落によるワークショップや交流会の開催は多数。

なお、会期後に実行委員会委員を対象に行ったアンケートを参考にすると、芸術祭により地域が活性化したと「感じている」「どちらかといえば感じている」との答えが90.2%を占め、そのうち63.0%が「集落や町内などの活動が活発になった」と答えている。また、作品設置集落・町内に行ったアンケートでは、作品が設置されて「良かったと感じている」「どちらかといえば良かったと感じている」との答えが77.4%に上り、そのうち51.2%が「作品制作作業を通して、地域内の人間関係が深まった」「(同) 地域内の活動が活発になった」と回答している。(詳細は「参考資料」9を参照。)

④また、民間事業者の動きながらも今回、同業者同士が結束のうえビジネスチャンスとして取り組み、また、これまで関わりが皆無の同業者団体(組合)から積極的な参加と協力を得ることができた。下記の二つは芸術祭を機として、閉塞的な経済状況の中に自らの活路を求めるとともに地域ブランドの発信を目指すため関係者が連帯して取り組んだケースであり、同様の動きの拡がりが見込まれる。

◇松之山温泉組合(インターネット上に共同サイトを新たに立ち上げ、空室やイベントなどの情報を提供したほか、今後のマーケティングに活かすため顧客情報を組合

全体で共有。)

◇大割野商工協同組合（来訪者の歓待と市街地の活性化のため、トリエンナーレセンターを自主運営したほか、商店街ならではの創意工夫により会期中の賑わいづくりに貢献。）

- ⑤以上が今回のポイントとして整理はできるものの、依然として地域全体からみれば小さな動きであることは否めない事実。ただ今後も、行政と住民とで、この動きを少しでも成長・増加させ、ひいては地域の活性化となるよう努めていかなければならない。

3. 新潟県内における経済波及効果

- ①会期中に実施した来訪者アンケートや第3回大地の芸術祭事業費などに基づいて、新潟県が推計した経済波及効果の結果は以下のとおり。

●新潟県が推計した新潟県内への経済波及効果の合計額は5,681百万円であった。

【経済波及効果】

(単位：百万円)

項目	初期需要	1次波及効果 (a)	2次波及効果 (b)	総合効果 (a+b)
県内生産誘発額(c+d)	3,860	4,927	754	5,681
建設投資(c)	778	1,141	186	1,327
消費支出(d)	3,082	3,786	568	4,354

※なお、経済波及効果とは「建設投資」や「消費支出」などのある「需要」が生じると、その需要に対して必要な原材料の生産が生じ、その原材料の生産に必要なさらなる生産が誘発されるなど次々と生産が波及していく効果を指すもので、一時的な売上金額だけを示すものではない。また、この経済波及効果は平成12年新潟県産業連関表を用いて推計しているため、波及効果は越後妻有地域だけではなく新潟県内に生じたものである。

- ②津南町が町内の商工業者などに実施したアンケートによれば、売上げの増加など直接的な経済効果を感じている業種は、旅館・ホテル業が主だったようである。また、後段のⅡ-3-(2)でも述べるように十日町・津南旅館組合は芸術祭による大幅な売上増を受けて、芸術祭継続開催の要望書を実行委員長に提出した。こうしたことから、圏域内の旅館・ホテル業には、芸術祭による経済効果が確実にあったと評価できる。また、寄せられた声や情報の中には、商業・サービス業（食堂・レストラン、コンビニエンスストア、ガソリンスタンドなど）の店舗は、「平年同期比で客入りが伸びたもよう」とあった。
- ③ステージ建設が行われた前回展と比較して建設投資額は減少したが、空家作品制作のために行われた民間企業の負担による長期賃借・買取空家改修事業は数千万円に上り、地元の建設・建築業に一定の経済効果があったものと推測される。
- ④会期中の来訪者の消費支出によってもたらされる経済効果は、来訪者数の増加に伴って回を重ねるごとに高まっているものと考えられる。しかし、50日間の経済効果だけではその効果にも限界があるため、会期外の時期においても経済効果が地域にもたらされるよう通年観光化に向けた取組を、民間活力も活かしながら行っていくことが今後の課題として残されている。

4. 「越後妻有」の情報発信

①今回は、前回以上に、多くのメディア・マスコミが取り上げた。広告宣伝は予算上の制約があるため、特にパブリシティによる発信が奏功した。（「参考資料」参照。）

※パブリシティ：情報提供によりマスメディアに働きかける広報活動。

②発信先は国内のみならず、前回同様に海外へも向けられた。フランスの代表的な日刊紙ル・モンドの取材をはじめ、アメリカの著名な美術関係誌（Art Asia-Pacific）のほか、テレビ取材がオーストラリアや中国からあった。特に中国は、約1週間の長期取材であったうえ、距離的な利便性からも今後の入込みが期待される。（同上）

③2006年3月、会期に合わせて公式サイトを刷新して閲覧者などの利便性を高めたことから、今回会期中のアクセス数は、前回その54,087件を大幅に上回る215,597件に上った。その結果の一つとして、2006年8月の都道府県ごとの海外アクセス・ランキングで、新潟県の順位を大幅に押し上げる一因になった。※出典：ジャパンガイド「外国人が興味を持っている都道府県ランキング2006年8月版」（<http://www.japan-guide.com>）

ただ今後も、より見やすく分かりやすいサイト構築を目指すとともに、インターネットを普段使用しない来訪者への対応も、きめ細かく講じていく必要がある。

④一般の観光部門との連携不足が課題であったが、今回、改善は不十分であった。今後は通年の誘客に向けて他の観光資源・施設とも協力関係を強め、互いに相乗効果を期しながら、地域の魅力を情報発信していくことが重要。

⑤3回の開催を経て、「越後妻有」ブランドはさらに定着しつつあるもよう。だが全国的にみれば、まだ相当数の有力観光地や集客施設が存在し、さらに競合は激しくなっているものと思われる。このため今後も、来訪者ニーズを的確に把握するとともに他との差別化も進め、あらゆる媒体を活用してのさらなる情報発信が欠かせない。

5. 来訪者の評価・地元の評価

（1）来訪者の評価

①圏域外来訪者の方はおおむね評価は高い。次回開催については未定ということで、ぜひ次回も開催してほしいという意見が多数寄せられた。期間中は「今度いつあるのか」という問合せが多く返事に窮したことも多かった。開催年には次回の開催時期を決め会期に臨む必要がある。

②作品数が多いこと並びに広大な範囲に作品が点在していることで、遠方から来る来訪者は1泊2日あるいは2泊3日ではすべて鑑賞できないため、残念がって帰る人も多かった。今後、作品数及び作品設置場所については十分検討しなければならない。

③障害者への対応が十分でなく、車椅子で鑑賞できる作品等の情報がなく指摘を受ける場面が多くあった。障害者の受け入れについて対応する必要がある。

（2）地元の評価

①今回の地域パスポート販売状況において10,492枚の購入があった。これは小中学生の無料配布パスも含め地元住民の約2割の方が手にしたことにより、住民も回を重ねるたびに関心を持ち始めたことがうかがえるが、評価としては作品に関わったなど参加した、しないで大きく分かれている。

- ②芸術祭が国内外から注目を浴びるプロジェクトとなったものの、地元では圏外に比べ盛り上がりには欠けている。今後、住民がより盛り上げられるような仕組みの構築について方策を練る必要がある。

Ⅱ 主要な取組に対する総括

1. 作品制作・展示・管理、ステージ

(1) 作品制作・展示・管理

- ①芸術祭の中核である作品展開は今回、新規に 205 点、これまでに設置した恒久作品 129 点と合わせると計 334 点が鑑賞可能となり最大規模となった。また、空家プロジェクトはこの地域の遊休資産の活用を試みたことで各方面から注目され、山間集落での展開は、過疎化が進む地区にただ衆目を集めただけではなく、集落が自らその魅力を再認識し誇りを持てるきっかけになったと思える。(作品内容は「参考資料」参照。) ただ一方、依然として以下の課題などもある。
- ②会場が広いことに加えてこれまで以上に作品数が多かったため、見て回るにあまりに時間がかかることになった。現に、移動時間が多いため満足が得られなかったという声があったうえ、来訪者にとっては作品鑑賞だけではなく、この地域を知ることや住民との交流の機会を持つための時間も大事と考える。今後は来訪者の効率的な移動のため、作品数はもとより、ある程度集中させての設置や幹線道路からのアクセスなどの検討が必要。
- ③設置場所の選定にあたっては、作品と周囲の自然とが共生するよう配慮していかなければならない。特に恒久作品については、経年に伴うその劣化なども考慮し、景観を損ねることのないよう留意する必要がある。
- ④地元関係者の求めに対して、作家の選定理由がきちんと示されなかったケースがあった。今後は、作家(作品)の選定理由を理解するよう十分配慮するとともに、より多くの住民が主体的に参加できる工夫をしていかなければならない。
- ⑤子ども達の年齢への配慮や教育上の効果を求める声があった。今後はそのような声を尊重するとともに、子ども達はもとより、多くの住民や来訪者にとって価値ある作品の展開をさらに図っていくことが必要。
- ⑥前回に比較して市街地の作品が少なかったため、徒歩で鑑賞可能な作品数を増やすべきとの声があった。交通手段を持たない人たちへの配慮はもちろん、市街地の賑い創出を図っていく必要がある。
- ⑦午前 10 時の開場時間に間に合わないなど作品管理のスタッフ数が全般的に不足したうえ、人気作品の周辺では混雑や渋滞が生じ、さらにスタッフ数を大幅に要することになった。この事態は結果として、関係者の理解・協力により対処できたが、あらかじめ配置計画を精査のうえ、必要人数を確保しておくべきであったことは大きな反省材料。
- ⑧今後の継続発展を踏まえると、作品制作と管理に関わる住民やボランティアにとって、労力提供への見返りがあるべきではないかとの意見があった。例えば、商業・サービ

ス業関連の民間事業者から協賛を募り、住民・ボランティアに無料パスポートや交流費などを手当てすることも検討する必要がある。

- ⑨会期に間に合わない作品が実際にあったため、余裕をもった完成を心がけるべきであったうえ、必要な周知も来訪者に対してすべきであった。また、制作に必要となる材料の多くを地元から調達したが、その過程や撤収時に混乱が一部見受けられたため、計画的な準備・撤収を心がけなければならない。
- ⑩作品の設置場所の周知が不足していた面があったほか、作品の鑑賞可能時間や宿泊者のみが鑑賞できる作品があることを周知すべきとの声があったため、さらに機会や媒体を増やすなどで改善していくことが課題。
- ⑪鑑賞可能な恒久作品は、常に良好な状態で維持する必要がある。ただ一方、これまでに設置した作品は計 140 点に上るうえ経年劣化も進むことから、維持管理コストの今後の増加が見込まれる。よって作品を良好に維持するため、作品数を一定に抑えるようその設置期間の継続的な見直しが欠かせないとともに、必要な経費の確保のため、例えば民間資金を募ることも視野に入れていかなければならない。

(2) ステージ

- ①ステージの会期中の入館者数は述べ 97,085 人に上り、前回の 74,897 人を 22,188 人上回り、30%の増加となった。また、芸術祭の開催による押上効果を推計すると、今回は通年の 7 倍程度あったもよう（比較可能な施設・期間で推計）、入館数の伸びに大きく貢献したといえる。今回を終えての課題は次のとおり。
- ②越後妻有交流館キナーレは、会期にかかわらず恒常的に、来訪者にとって芸術祭のセンター（中核）として支持されつつある。このため今後、通年での芸術祭のPRと施設への集客を目的に、関連情報などを集積させるとともに受け皿づくりを検討していく必要がある。
- ③また、他のステージについても、芸術祭のPRをはじめ地域内への通年の誘客などを目的に、ステージ間と残された作品群はもちろん、他の観光資源・施設ともさらなる連携を図っていかなければならない。

2. イベント

- ①前夜祭として行われた「妻有観世能」は約 800 人を集客、「世界太鼓フェスティバル」は初日に約 900 人、2 日目も約 700 人を集客するなど、今回の芸術祭における主要なイベントはおおむね盛況であった。集客面からすると全般的に成功したイベントが多かったと評価でき、会期中の賑わいを創出することに大きく貢献したといえる。（主要イベントの一覧は巻末の資料を参照）
- ②地域住民も構成メンバーに加え、実行委員会形式で開催した「妻有観世能」と「世界太鼓フェスティバル」は集客面では大成功であったが、実行委員会の立ち上げ時期が遅かった。そのため地域住民の一部からは、「地元にもっと早く情報を流してほしかった」「なぜ、もっと早い段階から地域住民を巻き込まないのか」といった不満の声も聞かれた。地域住民との協働は大地の芸術祭の重要なコンセプトであり、地域住民を巻き込んだ実行委員会形式でイベントを行うこと自体は大切なことである。ただ、このような形式でイベントを行う場合は、イベントの企画構想段階で早めに実行委員

会を立ち上げ、労務や人手の提供にとどまらない、より実質的な地域住民の参画を保障する必要があった。

- ③前述のことともかかわって、全般的に各イベントのPRを開始する時期が遅かった。短いPR期間で成功といえるだけの集客があったことは評価してよいが、もっと早い時期からPRしていれば、より多くの来訪者が見込めたはずである。ポスター掲出・チラシ配布・ホームページのアップロードなどのPR活動に極力早く取り組めるよう、イベントの準備をよりスムーズに行うことが課題といえる。
- ④会期中に開催されたイベントやワークショップの中には、一般のポスター・チラシに掲載されているもの以外の詳細な情報が各担当や案内所等に共有されず、地域住民や来訪者からの問合せに苦慮するものが少なくなかった。イベントやワークショップの開催にあたっては、各担当や案内所等の間で情報を共有し、どこに問い合わせても同じ内容を答えられるよう、連絡を密にする必要がある。
- ⑤イベントの中には、開催時間・開催会場の関係で一般来訪者の交通アクセスが極めて困難なケースがあり、案内所の対応においても苦慮するものがあった。イベントの会場や開催時間が、来訪者にとって参加しづらい条件に設定されている場合は、既存のもの以外にも独自の交通手段を用意するといったことも今後の課題である。
- ⑥芸術祭協賛イベント支援事業は、補助金を通して地域住民によるイベントの開催を促進・支援し、27件のイベントを採択した。この制度を利用して地域住民が数々のイベントを行い、それらの中には大きな賑わいをみせたものも多かった。これら協賛イベントをとおして、大地の芸術祭の開催が地域内にアピールされ、また芸術祭に積極的にかかわろうとする意欲を地域に醸成する効果も大きかった。
- ⑦これまでの芸術祭では、過剰なイベント数が課題とされていたが、数々のイベントが会期中の賑わいを創出したものとする。イベント数の精査による日程重複の回避やイベント事業費のスリム化・適正化といった工夫をしながら、イベントによって会期中の雰囲気盛り上げ、来訪者の増加を図ることは重要である。

3. 受入

(1) 交通システム

A. 全般的事項

- ①道路の安全確保のため、あらかじめ県や市町の所管課が危険箇所の補修等を行った。また、渋滞対策のため、当局では駐車場の整備を行い、各エリアでは交通誘導を実施したが、予想を上回る来訪者に新たな渋滞対策の対応が遅れてしまった。次回は、来訪者の駐車、誘導、ツアー等も併せて総合的な判断をし、駐車場や道路幅員の確保を図り、早い段階から地元等の協力を呼びかけて関係機関と連携していく必要がある。

- ②今回は関係事業者の理解・協力により二次交通（地域内での公共・準公共的な交通）が確保できたうえ、業績なども一定の成果を得たものと思われる。今後は事業者とさらなる協力関係を築くとともに民間の活力に大きな期待を寄せる。

B. 観光バス

- ①前回展の反省から、来訪者のニーズに対応するため、平日運行やより乗り継ぎの利

便性、昼食の確保、多くの作品へのアクセス等を考慮した。平日は計4コース設定し日替わりで毎日2コースを運行した。土日は計6コース設定し6コースを運行した。全てのコースで作品ガイドを付け、うち5コースは食事付きとした。作品ガイドは作品解説に留まらず地域を知ってもらううえで好評であった。

- ②また、鉄道、バス会社の努力により作品鑑賞料込みの手頃なツアー商品を用意した。関係者の努力のほか多くのメディアに取り上げられたこともあり、ツアーバス利用者は前回は479%増となった。
- ③バス会社以外の取組では、地域の作品鑑賞のためのNPOバスやバスツアーコースを補完する市営バスの運行をした。また、各エリアでは、地域の高齢者のための作品鑑賞ツアーを組んだ。
- ④さらに地域の作品を案内するボランティアガイドの配置や休憩所等を設置し、地域住民の参画による芸術祭の盛り上げも来訪者増の要因の一つとなった。今後も地域と一体となった取組を継続する必要がある。
- ⑤しかし、会期終了後は、「ステージ」の入込み者数が大きく減少しているため、今後は、アート作品だけではなく地域の観光資源と絡めた通年観光に取り組む必要がある。

C. タクシー・レンタカー

①タクシー

- ◇前回の周遊コースは、高額な利用はあまりなかったため、手頃な価格設定を軸とし、想定される人気作品やバスコース以外へのアクセスを主眼として13コースの設定をした。
- ◇タクシー協会では企業努力により通常料金よりも安価な価格設定をした。また、事前研修を行い、運転手による作品解説の取組により来訪者の案内のサービスが向上した。
- ◇鑑賞タクシーの利用台数は前回は175%増となった。その他に時間貸切が255時間あった。
- ◇しかし、乗合調整は同時刻同コースの利用者の不足から今回も機能しなかった。また、利便性が相対的に低いエリアでは利用者は少なかった。一部のコースでは、予定変更に伴う来訪者からの苦情があったため、今後はこのようなことがないように関係者と申し合わせていかなければならない。
- ◇今後は、ツアーバスと同様に通年観光の取組と利便性の向上を検討する必要がある。

②レンタカー

- ◇芸術祭期間中のレンタカーの利用は十日町エリアの50日間の累計で前回は46%増となった。土日及び会期後半は十日町エリアのレンタカーは予約が満車状態であった。駅案内所では当日予約のない来訪者には湯沢、六日町などへの紹介をせざるを得ない状態であった。
- ◇JRとのタイアップ商品の企画が湯沢・六日町方面のレンタカーの大幅な利用増の一因になったものと思われる。
- ◇今後は、レンタカーの需要に応えられるよう関係者と協議する必要がある。

D. レンタサイクル

- ①前回の反省から、十日町・松代エリアに合計 30 台を配置し有料化した。貸出台数は案内所一日平均 7 台と前回比 60%減になった。しかし、新たにレンタスクーターを導入した点や作品ガイド付きツアーバスの充実、タクシーコースの見直しなどの影響があったものと思われ、自転車の稼働率が 7 割である点からすると適正規模であったものと思われる。
- ②一方で、会期後半の土日では自転車は全て出払うこともあり、足りなかったという意見もあった。今後は土日の需要にいかに対応していくかを検討する必要がある。
- ③返却時間を前回同様に設定したが、返却時間を過ぎても返ってこないことが度々あった。利用者からは一日以上の貸出を含めた返却時間の延長の要望もあった。各案内所の開館時間に合わせた返却時間としたが、今後は、貸出時間の延長について検討する必要がある。

E. レンタスクーター

- ①今回初めてレンタスクーターを取り扱い、十日町・松代エリアに合計 8 台を配置した。貸出台数は一日平均 3 台となった。来訪者からは複数台の設置と返却時間の延長の要望があったが、取り扱った事業者の収支が合わなかったため、来訪者の状況をみながらサービスの向上を図る必要がある。また、利用者からの意見はおおむね好評であり、今後はレンタスクーターの需要が伸びていく可能性がある。

F. シャトルバス・鉄道・路線バス

①シャトルバス

◇シャトルバスは、マウンテンパーク津南から松之山キョロロ間で一日 7 往復、一時間に一本という時間帯で運行した。利用者数は前回比 51%増となった。

◇しかし、シャトルバスは利用者が少なく必要だったのか疑問を感じるという意見もあり、今後の検討が必要と思われる。

②鉄道

◇関係企業の理解と協力により、今回初めて、新潟から十日町・松代へ直通の臨時列車を運行し、2,001 人の利用があった。ほくほく線十日町駅の利用者は前年比 21%増、まつだい駅では 50%増、JR 十日町駅の営業実績は対前年比で 8 月は 8%増、9 月は 29%増となった。

◇来訪者からは十日町駅にコインロッカーを設置してほしいという要望が多く寄せられたため、今後検討する必要がある。

③路線バス

◇運行会社への聞き取りによると、芸術祭による乗客数への影響は小さかった。

(2) 宿泊

- ①前回展同様、十日町観光協会と連携してインターネット上で空室情報を提供した。情報は毎週水曜日に空室情報を更新するもので、会期末には申込が殺到し 1 週間毎の更新では正確な空室情報の提供ができなかった。今後、通年の情報提供を行う体制整備を含め随時更新できるシステムを構築する必要がある。
- ②十日町・津南旅館組合では、「期間中の宿泊数も大幅に増加し売上も伸び宿泊業を営むものにとっては好評であった」ということで、9 月 6 日に実行委員長へ大地の芸

術祭継続開催についての要望書が提出された。地域の産業振興を図る視点から前向きな検討が必要であるが、継続開催する場合には、関係者の理解・協力も欠かすことができない。

(3) グッズ制作・販売

- ①来訪者への満足度向上や地元企業と販売店の参加を図り、統一コンセプトに基づく新たな地場産業の育成を目的として、付加価値を高めたデザインによる公式グッズの商品化を行った。
- ②公式グッズとして開発・製造・販売を行ったものは31品目74種類172アイテム(公式ロゴグッズ23品目、59種類、公式アーティストグッズ8品目、15種類)に上った。
- ③グッズの開発にあたり地元産品や地元企業の関わりを主に考え、ヒアリングや説明会、デザイン内覧会を実施し、圏域内の地元参加企業は21社に上った。
- ④前回のグッズの売れ筋の傾向を踏まえて品目やデザインの選定、価格設定を行い、ボリュームを抑えた小分け販売の提案やラベルデザインの提供などにより地元企業に新しい視点を持ってもらう機会となった。
- ⑤しかし、生産量を前回の倍以上に増やしたが、土日前は品薄状態となった。
- ⑥グッズの製造・販売等は今後の地域産業の活性化に資するうえで重要な事項であるが、販売手数料が通常の民間販売委託手数料よりも大幅に低い設定のため販路が限定された。今後は販路の拡大や次回の収入源となり得るかどうかを含めて利益構造を検討する必要がある。また、より多くの地元企業の参加を促し、商品の品揃いや顧客ニーズを考慮した持続的な製造・販売方法についても検討していかなければならない。
- ⑦一方で、地域性を活かした食事の提供が少ないことや特徴が乏しくオリジナル性に欠ける土産品もあったという意見が寄せられた。

(4) トリエンナーレセンター、駅案内所、こへびステーション

① トリエンナーレセンター

- ◇駐車場確保などの反省点もあるが、設置場所は各エリアの拠点に設けたためおおむね来訪者を誘導できたものと思われる。来訪者からの意見では、対応が親切であるという意見が多かった。
- ◇しかし、運営体制(情報確認先が不明瞭な点、接遇、運営人数、事前研修、外国人対応等)に課題が残った。今後は関係機関とより一層連携しながら運営体制について検討していく必要がある。
- ◇また、会期中、会期前後を含めて「ステージ」への問合せも多く、その機能としての確な情報を提供できる体制づくりが必要である。
- ◇今後は、計画的に余裕をもって作品やイベントの全容が見えるように取り組み、来訪者のニーズに応えるようにしていく必要がある。

② 駅案内所

- ◇十日町駅案内所(西口、東口)では、会期後半の土日では売上記録を更新し盛況であった。また、他の案内所と連携した案内は好評であった。
- ◇駅前に設置したバス会社によるツアーバスの受付では長蛇の列となった。次回は、

一定時間帯の増員体制についても検討する必要がある。

③こへびステーション

◇来訪者との交流、案内所業務等のスタッフとして貢献した。

◇連携面では毎朝トリエンナーレセンターと情報共有をした。しかし、テレビ報道の情報共有では課題を残した。

●案内所全般的事項

◇今回、イベント等の最新情報の問い合わせ等に対応するため松代農舞台に総合案内所を設置した。しかし、一般来訪者にとってインフォメーション機能が複雑であったため案内所の機能の整理・見直しが必要である。

4. 案内

(1) 広報宣伝

①今回は2006年3月の企画発表会を機に、パンフレットとポスターを頒布・掲出し、広報活動を開始した。その後、パブリシティによる広報を同時並行で進め、雑誌広告は6月から、7月上旬からは県内のテレビ・ラジオでスポット広告を展開した。今回の広報活動は「にいがたサポーターズ会議」の協力も得ながら、首都圏に比べて認知度がやや低いといわれる新潟市をはじめとした県内向けに重点を置いて行った。

②地域内の雰囲気の高揚はきわめて重要であるため、市町の広報紙の活用にとどまらず、様々な媒体や手法をとったうえ、住民にさらなる周知をする努力がもっと必要であった。

③来訪者が一時期に集中し過ぎないように、例えばパブリシティやあらゆる媒体を有効に組み合わせるなどで、入込みの平準化を考えていく必要もある。これは結果として、会場内の混雑や交通渋滞の解消などで、来訪者の利便性向上につながる。

④また今回、特定の作品に来訪者が集中する傾向が強かったが、作品の全体評価を高めるためにも周知方法を改善・工夫すべきであった。

⑤来訪者の利便のため、トリエンナーレセンターの所在・機能などをもっと周知すべきであった。また、地区によってはボランティアガイドの利用も可能であったので、そのことの案内も必要であった。

⑥関係者の協力を得ての車内広報の活用などで、公共交通機関の利用者のため情報提供をすべきであった。また、高速道路のサービスエリア・パーキングエリアへのパンフレットなどの配置を検討すべきであった。

(2) サイン看板

①作品誘導案内看板を圏域内に630箇所設置した。設置箇所についてはエリア担当者と共同で場所選定を行ったことによりきめ細かい設置ができたが、あまりにも作品数が多いことと、作品が山間地に点在したため、補足看板をかなり設置したものの作品までの移動距離が長く看板数が全体に足りなかった。

②看板に作品までの距離何kmを表記してほしいという要望がたくさんあった。作品までの距離数を表記する必要がある。

③恒久作品及び会期後も一定期間残る作品への誘導は、通年観光化へ向け会期後も必

要であり、今後設置・管理を含め検討する必要がある。

- ④十日町市・津南町に入っても、大地の芸術祭をやっているという目印がないため、遠方から来る自家用車の来訪者から看板等目立つものを設置してほしい旨要望があった。圏域の玄関口に歓迎看板等目立つものを設置する必要がある。
- ⑤十日町市下条地域が設置した黄色の三角フラッグ旗及び津南町商店街が商店街に設置した歓迎旗、川西地域商店有志が設置した看板、松之山地域の各地区協議会が設置した手作りの歓迎看板などにより芸術祭を開催されている印象が高められた。全地域で取り組みればより一層芸術祭が開催されているという印象を高められる。

(3) 印刷物

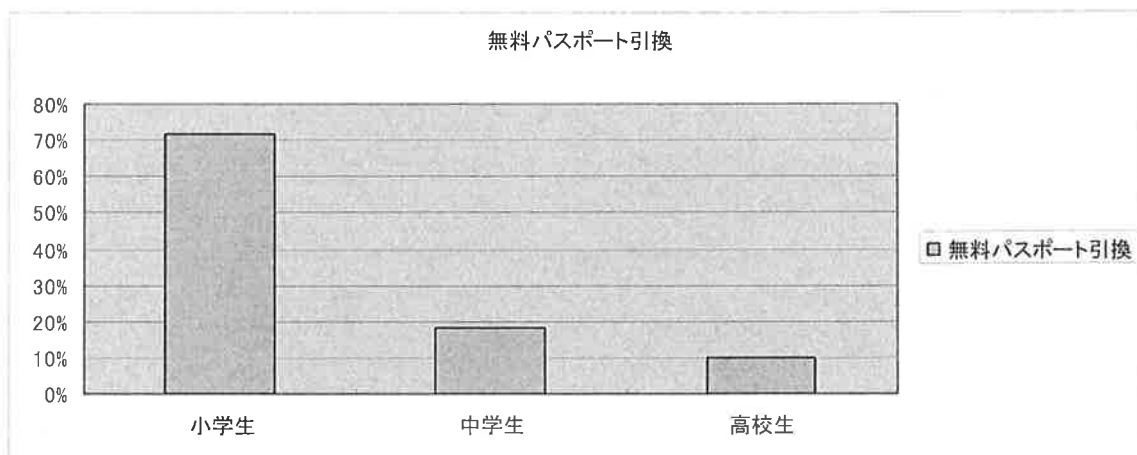
- ①今回の印刷物の主なものは、パンフレット・ポスター、ガイドマップであるが、ガイドマップについては地域内の全世帯に配布したほか、7月から有償で一般販売をして収入の確保を図った。また、ガイドブックについては専門の出版社に制作を初めて任せ、高い編集技術と全国規模の流通網の活用を試みたが、販売先の照会が多くあったなど、流通させた冊数が十分でなかった面がある。
- ②印刷物に掲載されているにもかかわらず何らかの事情で鑑賞できない作品については、来訪者に対して迅速に、作品名とその理由をきちんと掲示（公表）する必要がある。
- ③ガイドマップは、来訪者の利便性確保のため、今後は次の事項の検討が必要。
 - ◇作品一覧について、設置年（回）とタイトルを表示。◇作品の所在地番を表示。（車載ナビシステムのため。ガイドブックについても同様。）◇宿泊施設・飲食店等を表示。◇初めての来訪者の視点に立った、わかりやすい地図表示。◇無償頒布、もしくは上記事項を表示しての情報に見合った代金の設定。
- ④また、ガイドブックについて、次の要望があった。
 - ◇本体規格と印字ポイントをサイズアップ。◇観光スポットとその解説を掲載。◇公共交通機関の時刻表。◇価格の上限は1,000円。
- ⑤パンフレットが会期中に不足気味となったため、今後の頒布予測は的確に行うべき。
- ⑥来訪者の利便と地域内の経済効果のため、宿泊施設や商店街などの案内マップの作成・頒布の検討が必要。

5. パスポート

(1) 販売

- ①2006年3月の企画発表会に合わせて販売を開始し、関係団体等を通じて販売協力を依頼した。さらに首都圏の旅行代理店、新潟県内のチケット取扱店に販売を依頼したが、前売りに関するポスター・パンフレットなどPR用印刷物の配布と販売がうまく機能していないところがあった。
- ②地域パスポートの販売方法については、住所地の確認を重視して販売所を限定したため、販売箇所の案内や幟旗の掲出のみでは、十分な周知ができなかった。
- ③今回初めて、県内小中高校生を無料招待することに決め、県内教育長会議や校長会議で学校を通して無料パスポート引換券の配布を依頼した。しかしパスポート引換についての問合せやトリエンナーレセンターで引換券を求める来訪者も多く、配布方法に

について検討していく必要がある。会期中パスポートと交換した人は、合計 2,135 名で、その内訳は、小学生 1,540 名で 72%、中学生 391 名で 18%、高校生 204 名で 10%と小学生の利用が相当数を占め、結果として保護者の入込みやパスポート販売を押し上げたものとする。今後一層の、学校の授業やクラブ活動を通じた芸術祭参加・来訪など、関係機関に働きかけていく必要がある。



- ④パスポート料金を一般券 3,500 円、学生・シルバー・高校生券 2,500 円、小中学生券 800 円、地域一般券 1,000 円と設定して販売した。さらに県内小中高校生の無料券も含めてパスポートの種類が多すぎた。印刷経費の問題、販売ミスの防止などとパスポート販売時のチェック方法なども含めて検討していく必要がある。
- ⑤身体障害者施設・老人ホーム等から、無料パスポートの問合せがあった。今後は、障害者・高齢者にも配慮した芸術祭として取り組む必要がある。
- ⑥各エリアのトリエンナーレセンターやこへびステーションでパスポートの販売、交換を行ったが、販売箇所が限定されることからさらに来訪者の便宜を図る目的で屋内作品の受付でパスポートの購入・交換ができるようにした。
- ⑦個別鑑賞券の料金徴収で会期途中から、一作品ごとに料金を徴収するようになったが料金徴収方法が徹底されずに、真田小学校の 5 作品 1,500 円の徴収など、来訪者に不信感を与えマイナスイメージを招いた。

(2) チェック体制

- ①芸術祭は地域全体が一つの美術館として、屋外で展開する美術展であるが、パスポートを持たない来訪者が多く、有料でイベントを行っていることを周知していく必要がある。屋内作品は有料で屋外作品は無料と言うように誤解されている部分があり会期中途から係員を配置してパスポートチェックをしたところ、来訪者からのクレームがあった。パスポートチェックはこへび隊に拠るところが大きく、全作品設置場所でチェックする体制を組むことができなかった。すべての作品に係員を配置することは無理としても、チェック体制の改善も含めて見直していく必要がある。
- ②作品スタンプの配置は、作品番号欄にスタンプを押してもらい、スタンプラリー的な企画として支持された。使いやすさを配慮してスタンプを選定したが、スタンプの紛失、キャップの紛失、インクの蒸発による乾き、300 を越える作品すべてを巡回してインクの補充をする手間など、保管・管理方法のまずさなどに強い批判があった。次回

への大きな課題である。

- ③休日などに来訪者が集中し、ステージや作品入場時に行列ができてしまい、受付時のパスポートチェックとスタンプ押印の仕方など、混み合う作品でのチェック方法は、見直す必要があった。

6. サポーター・地元ボランティアとの連携

- ①今回の芸術祭においても、こへび隊は会期中の運営に大きな役割を果たした。登録人数 930 人、会期中 50 日間の実働人数 480 人、延人数約 2,500 人が、空家を中心とする作品管理業務、会期中毎日運行されたツアーバスの作品ガイドなどに従事した。参加したこへび隊一人ひとりの頑張りには、あらためて感謝の意を表したい。
- ②2004 年 10 月 23 日に発生した中越大震災（新潟県中越地震）後、被害の大きかった十日町・川西エリアを中心に、大地の芸術祭に関わったサポーター・アーティスト・妻有ファンが震災ボランティアとして活動した。この活動は延 33 日間、224 人に及び、物資の運搬・家屋の掃除・廃材の搬出・内壁の修復・雪下ろしといった作業を通じて、震災復興を支える力となった。これは芸術祭による地域住民とサポーターとの交流が、単に芸術祭を開催・運営するだけにとどまらない強い関係性に発展していたからこそ生まれたものである。こうしたことも芸術祭がこの地域にもたらした大きな財産であり、今後も芸術祭以外の場面で、地域住民とサポーターの連携・協力が生まれることを期待したい。
- ③一方、会期中の運営に従事したこへび隊の一部には、言葉遣いや挨拶などの面で地域住民から問題を指摘された者もあったようである。こへび隊は社会経験の浅い学生が多いこともふまえ、地域住民との関わり方や来訪者への接遇に関して、スタッフとして身につけておくべき基本的な態度や姿勢を研修しておくことが必要であった。
- ④また、会期中に汗を流した一人ひとりのこへび隊に対する評価を決して下げるものではないが、作品管理等運営に必要な絶対数に対して、従事するこへび隊の人数が会期中に何度か不足し、来訪者に迷惑をかけることがあった。こへび隊以外のサポーターや地元ボランティアの発掘・拡大も含め、こへび隊だけでは必要人数をまかないきれなくとも円滑に運営できる体制づくりが今後の課題である。
- ⑤今回は、従来のこへび隊に加え、「おおへび隊」と「にいがたサポーターズ会議」がサポーター組織として新たに加わり、大きな力となった。「おおへび隊」は、都内で月 1 回程度会議を行いながら、そのメンバーが企業の協賛金集めなどに奔走し、第 3 回展開催のための資金獲得に絶大な役割を果たした。また、新潟市の市民有志を中心に結成された「にいがたサポーターズ会議」は、新潟県内における芸術祭への関心を盛り上げるために大きな役割を果たした。今後もこうしたサポーター組織を重要なパートナーと位置づけ、連携していきたい。
- ⑥2005 年夏から登録者を募集した地元ボランティアは、結果的に大きな力にはなり得なかった。その原因としては、募集段階においてボランティアの役割が絞りきれていなかったために、一人ひとりの意気込みの度合いやボランティアとして関わりたい内容がまちまちで、登録者を集団としてまとめていくことが極めて困難だったということが挙げられる。また、研修として行った作品鑑賞ツアーや視察への参加のみで、実際

に具体的な活動をしないうで終わってしまう登録者も現実にはいた。一方で、地元の意欲のある人たちをうまくボランティアとして組織できなかったことを反省すべきだという意見もあり、呼びかけの仕方や時期、中核を担う層、研修のあり方などをよく検討したうえで、地元ボランティアを発掘・拡大していくことが必要であった。

⑦松代エリアでは、独自のボランティアガイドが組織され、まつだい駅周辺の作品を案内した。会期中を通じて、実人員 18 人、延べ人員 152 人のボランティアガイドが、60 組 356 人の来訪者を案内したことは特筆されるべきである。地元ボランティアに関してはこの松代の取組のように、広域的なものだけでなく、地域密着型のボランティアを組織し、その活動を支援していく必要がある。

⑧こへび隊をはじめとする地域外サポーターが、作品制作期間や芸術祭期間中に限らず、継続的に地域に関わっていけるような仕組みづくりを求める声は強い。地域外サポーターが芸術祭以外の活動も含めて継続的に地域と関わっていくことが、地域の活性化につながり、また芸術祭そのものを運営していくための力になると思われる。そのためにも芸術祭で生まれた地域住民との交流や協働を一過性のもので終わらせないような仕組みづくりが課題である。

7. 実施事業費

●第 3 回芸術祭決算見込み

(単位：千円)

項 目		平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	合 計
歳 入	県負担金	29,572	32,972	43,856	106,400
	市町負担金	46,000	51,000	72,250	169,250
	緊急雇用補助金	12,900	—	—	12,900
	共通パス販売収入	—	—	143,110	143,110
	寄附金	—	2,068	211,400	213,468
	その他国・県負担金補助	—	—	3,197	3,197
	その他雑入	685	2,306	12,936	15,927
	繰越金等	799	1,292	4,056	6,147
	計	89,956	89,638	490,805	670,399
歳 出	大地の芸術祭運営事業費	69,556	82,138	462,528	614,222
	緊急雇用(スタッフ支援事業)	12,900	—	—	12,900
	ソフト事業費	7,500	7,500	12,000	27,000
	計	89,956	89,638	474,528	654,122

※平成 18 年歳入、歳出との差額 (16,277 千円) は、繰越見込み

①当初予算規模で計画を進めてきたが、「里創プラン推進事業」の 10 年目として、作品数を増やしたことから、当初計画以上に制作費用がかさむことが判明したため事業費を補正した。厳しい経済情勢の中にあって、不確定な寄附・協賛金やパスポートの販売額などを見込んで事業費を増額する方法には無理がある。今後は必要経費を的確に見込んだうえ、民間活力との連携も視野に入れつつ、財源の確保を図っていかなければならない。

②企業協賛活動は、首都圏などの応援団おおへび隊の協力により、2004 年の中越大震災、二年続きの豪雪と甚大な被害を受けた越後妻有地域の復旧・復興と芸術祭を応援するための支援者を募り資金調達の面から支援する体制が構築された。また、地元企業からもパスポート協賛などで協力を得ることができた。今後は資金面での支援だけでなく、どのような関わり方が可能なのか、産業界とも協議・相談していく必要がある。なお、第3回寄附金内訳は下表のとおり。

●寄附・協賛一覧表

(単位：円)

種 類	企業・法人(個人)数	合計額
寄 附	42 件	211,400,000
パスポート大口購入協賛	19 件	16,900,000
現物協賛	3 社	718,940
作品スポンサー	5 社	7,450,000
地元パスポート購入協賛	26 社	2,730,665
合 計	95 社	239,199,605

③パスポートの販売収入は重要な財源であるため、これまでの実績で地域内の関係団体に振り分けて依頼したところ、残念ながら厳しい結果となった。パスポートの販売が事業予算の確保に直結することから、販売戦略を検討し、確実な予算組みをしていく必要がある。

8. 住民理解・住民参加

- ①第1回、第2回と回を重ねるごとに大地の芸術祭開催に対する理解が進んできたが、今回はより一段と住民理解と参加が進んだと認識している。圏域内でのPR活動を行った際も、「今年はまた大地の芸術祭がある年だね」と楽しみな表情をみせる地域住民は多かった。もちろん、作品設置の有無などにより地域によって温度差が存在することは否定できないが、大地の芸術祭という事業が3回を重ねる過程で、着実に地域に定着してきたと評価できる。
- ②前回は50を越える集落・町内が作品設置に名乗りを挙げたと言われているが、今回はそれを大きく上回る集落・町内から要望があった。この点からも芸術祭に対する住民理解・住民参加は大きく進んでいるといえる。会期後、作品設置集落に行ったアンケートでは、64.1%の集落・町内が「大いに」あるいは「どちらかといえば」作品設置を希望し、84.9%の集落・町内で「大いに」あるいは「いくらか」作品設置に協力する動きがあったと答えている。このことから地域住民とアーティストやサポーターとの協働は着実に広がっていると評価できる。
- ③作品が設置された集落や地域では、特徴的な取組が目立った。願入陶芸村として人気を集めた願入集落の「うぶすなの家」では、地元の女性たちが中心となって山菜料理などを振舞うレストランを運営し、好評を博した。菊池歩「こころの花—あの頃へ—」が設置された中平集落では、作品制作に地域住民が大きな役割を果たすだけでなく、会期中における作品のライトアップ、交通混雑に対する地元青壮年の自主的な対応など、地域が大いに盛り上がった。

④作品に直接かかわるものの他にも住民参加・協働の例をいくつか挙げたい。

◇下条地区（十日町エリア）

→広域事務組合からの補助金を活用して、下条温泉「みよしの湯」を会場に地区独自の案内所を開設、また地区内全戸に芸術祭歓迎フラッグを設置。

◇田麦集落（十日町エリア）

→広域事務組合からの補助金を活用して「田麦茶屋」を開設し、来訪客の案内所・休憩所を地域住民が自主的に創設。

◇小白倉集落（川西エリア）

→「小白倉芸術祭協力隊」を組織し、お休み処「よらねかの」を開設、また集落内を彩るため「コスモス街道」を整備。

◇東田尻「大地のグルグル」実行委員会（中里エリア）

→芝裕子作品「大地のグルグル」の制作に関わった地域住民による実行委員会が自主的に来訪者用の休憩所を設置。

◇松代区（松代エリア）

→お休み処としてテント、ベンチを設置し、冷たい麦茶サービスを行う。

◇上鰻池集落（松之山エリア）

→竹内美紀子「ハガキプロジェクト」作品展示場の隣接地に簡易テントで来場者用の休憩所を設置。また、地元の野菜も販売。

◇津南町

→中心地の商店街を中心に、街灯を利用した約 60 枚の吊下旗を設置し、会期中の華やいだ雰囲気を演出。

これらの他にも数多くの事例があったと思われるが、こうした取組は来訪者に対する地域のホスピタリティを高め、来訪者と地域住民との交流を促す意義深いものであり、大いに評価できる。

⑤今回の芸術祭では、前回と比較して中心市街地・商店街が今ひとつ盛り上がりなかった。これは第2回展に比べ、中心市街地・商店街への新たな作品設置が少なく、逆に空家・廃校を利用した作品が多く設置された山間地集落が脚光を浴びたためと思われる。芸術祭への住民参加を通して過疎化に悩む山間地集落を活性化する一方で、空洞化に悩む中心市街地・商店街の住民参加や活性化も同時に促すような企画・運営が求められる。

⑥一部の地域では見られたが、地元の農産物や休憩用の飲み物・軽食を販売するなどして、来訪者が作品鑑賞のために立寄った地域で消費をしていくようなシステムづくりがより求められる。こうした取組が行われることにより、地域住民が主体的に芸術祭にかかわる筋道が増え、また地域活性化にも寄与することとなる。実際に、会期後実施した作品設置集落・町内対象のアンケートでは、そうした地域への実利を求める声がいくつかあったことも事実である。それらを踏まえて、地域に対する働きかけや支援方策を考えていくことが課題である。

⑦加えて、作家やこへび隊との交流・協働、直売所などの自主的な地域の活動による地域の活性化は、会期前・会期中の一時的なものにとどまっており、継続性が薄いと指摘もある。芸術祭によって生まれた住民参加と地域活性化の芽を一過性のものに終

わらせず、会期後にもつなげていくような支援が求められる。

- ⑧会期後、作品設置集落・町内に実施したアンケートによると、作品が設置されて「良かった」「どちらかといえば良かった」と感じている地域は、合わせて 77.4%に上った。これに対し、今後の芸術祭の開催については「希望する」「どちらかといえば希望する」と答えた作品設置集落・町内は合わせて 49.0%にとどまり、「希望しない」「どちらかといえば希望しない」が合わせて 24.5%、「どちらともいえない」が 20.8%と作品設置を良かったと感じていることと芸術祭の継続希望が必ずしも結びついていないことが分かった。(作品設置集落・町内に実施したアンケート結果の詳細については巻末の資料を参照)
- ⑨作品制作における地域の参加については、アーティストが長期間にわたって地域に入り込み、地域住民と信頼関係を築いたうえで制作された作品もあったが、一方では作品制作における人手不足や材料不足を相当地域が負担しているという声が現にある。地域によっては作品制作における協力を相当負担に感じている住民もいる。前述した作品設置に対する感じ方と芸術祭の継続希望の間に生じている隔たりは、そうしたところに理由があるのではないかと推測できる。前述したように地域住民とアーティストやサポーターとの協働は着実に広がっていると思われるが、関わった地域が負担だけを強いられるのではなく、アーティストの対等なパートナーとして協働し、芸術祭に参加した喜びや達成感をより得られるような作品制作のあり方を模索していくことが今後とも課題である。

9. 組織・体制のあり方

- ①これまでと同様に今回、大地の芸術祭実行委員会により主催し、新潟県、十日町市、津南町、十日町地域広域事務組合（事務局担当）が実務を担当した。また今回も、首都圏方面の窓口として東京事務局を設け、(株)アートフロントギャラリーが担当した。
- ②今回を振り返ると次の点が反省点として挙げられる。来訪者の利便性と印象の向上のためにも改善されなければならない。
- ◇情報が共有されていない面があったなど、実務担当者間の連携が不足した。
 - ◇その連携や全体調整を担う事務局の機能が不十分だった。
 - ◇外部からみた場合、組織内の窓口や担当がわかりづらいとの声が依然ある。
- ③また、取り巻く情勢や課題を踏まえると、今後の組織・体制のあり方について次の事項が特記される。
- ◇深刻的な地方財政の状況から、これまでどおりの市町負担はきわめて困難な見通しであるため、必然的に事業規模の見直しや代替財源の確保が欠かせない。
 - ◇当初予定していた3回の芸術祭の終了をひとつの区切りとし、今後は地域の大きな課題である産業振興と通年観光のため、民間事業者や既存の観光資源・施設と緊密に連携していく必要がある。
 - ◇より住民に開かれるとともに機能強化を図るため、実行委員会組織の望ましいあり方を検討する必要がある。
- ④芸術祭の継続を検討する際は、上記を踏まえながら、新たな組織・体制も同時並行で考えていかなければならない。

Ⅲ “越後妻有アートトリエンナーレ” 10 年間を振り返って

本章では、当初に予定した 3 回目の芸術祭が終えたことを機に、これまでの 10 年間を振り返るため、前回と前々回の総括報告及び本書の前章までの内容を踏まえ、所期の目的であった、①交流人口の増加、②地域の情報発信、③地域の活性化について、その実現度と進展度を点検・検証するものとしたい。

① まず「交流人口の増加」は、第 1 回の芸術祭で 162,800 人が、続く第 2 回展は 205,100 人、そして今回の第 3 回展が 348,997 人と計 716,897 人がこの越後妻有を訪れた。また、来訪者とは別に、首都圏を中心に組織されたサポートチーム“こへび隊”が作品制作や住民との交流のため往来して、これまでに延べ 13,940 人（一部推計）が関わった。当時生まれた交流の多くは、地域と世代を超えたものであり、その中には芸術祭の会期にとどまらず、現在も継続しながら親交を深めている事例もある。またここ数年、若き“こへび隊”をサポートするシニア層の応援団や、越後妻有の“ファン”を自称・自認するサポーターも数多く現れている。さらに、県都・新潟市周辺の応援団“にいがたサポーターズ会議”や、芸術祭を資金面で支援しようと首都圏の企業人らが組織した“おおへび隊”の登場など、この事業を機として生まれた交流の輪は拡大する一方であり、生まれたつながりや深い絆はこの地域にとっての貴重な財産として受け止める。

② 次に「情報の発信」についてだが、国内においてはこれまで様々なマスメディアに数多く取り上げられたうえ、地域からも積極的に情報を提供し続けることで“越後妻有”“十日町市”“津南町”を発信してきた。海外についてもル・モンド（仏）やフィナンシャルタイムズ（英）の有力紙の取材をはじめ、中国やオーストラリアなどからの TV 取材もあり、世界各国にこの地域の名を知らす機会となり、この事業の取組がなければ、このような発信はあり得なかったといえる。

また、マスメディアの活用にとどまらず、地域づくりの視点から二度にわたり総務大臣表彰を受け（2001 年/2005 年）、事業について高い評価を得るとともに全国にこの地域を発信してきた。さらに、国の支援策である“外客誘致促進事業”（ビジット・ジャパン・キャンペーン）と“日本風景街道”（シーニックバイウェイ）を積極的に取り込み、国内外から通年で観光誘客を図り、地域の発信を進めてきた。地域を発信していくことは、将来にわたって誘客やビジネスでの結びつきが図られるということだけではなく、何よりも、住民一人ひとりが郷土に誇りを持つきっかけになると考え、これまで注力してきた。

③ 最後の「地域の活性化」については、経済的な効果と地域コミュニティの二つの側面から考えてみたい。

まず、新潟県内における経済波及効果を、主催者と来訪者の消費支出による波及効果でみると、第 2 回展は 12 億 2,500 万円、そして第 3 回展が 43 億 5,400 万円と推計され、大きな効果があったものとする。また、芸術祭に係わって国や県が行った道路改修や公園整備などのハード事業費はこの 10 年間で約 87 億円に上り、建設業を中心に大きな経済効果があったと考える。

次に二つ目の側面からみると、これまでに、集落あがての参加で賑わいをつくるとと

もに絆を深めたり、歴史・文化の再発見や再興をしたりなど、この事業を機に地域のつながりが強まったという声は多く寄せられおり、地域全体の拡がりではないが、コミュニティは確かに醸成されつつある。ただ、引き続きこの動きを拡大・加速させていくことがコミュニティのさらなる充実となり、多くの住民が地域の魅力を再認識したり愛着を覚えたりするきっかけになるであろうし、ひいては住民の一つひとつのその思いが、この地域を未来に向けて継続発展させていくものと信じる。

これまでの10年を振り返ると、必ずしも目的の多くが完遂されたわけではないが、上記のようにこの事業で、地域に蒔かれた種子は数多く芽生え、また着実に育ちつつあることも決して否定はできない。また、大勢の来訪者にたくさんの感動を与えてきただけでなく、我々に、この地域の魅力と文化を見直す機会を与え続けてくれたのは確かである。それは、多くの住民にとって誇りや愛着を持つきっかけとなり、さらに、市と町の境界を越えた広域連携や住民による協働の実践など、時代を先取りした取組が実を結びつつあるうえ、新潟県を代表するイベントに成長したと評価されていることも事実である。むしろ、この10年で培われた様々な事象を肯定的に捉え、さらに大事に育んでいくことが、いずれは地域の活性化になるものと信じ、次章へと進めていきたい。

IV 次回に向けて

本章では、第Ⅱ章までのそれぞれの取組ごとの考察と、続く第Ⅲ章での10年間の検証も踏まえながら、本章では次回開催の適否と今後の方向性を示すこととしたい。

●次回について

まず、芸術祭がこの地域にもたらしたものを再度掲げると、交流人口の増加、地域の情報発信、地域の活性化の3つをはじめ、郷土の再発見・誇りと愛着の醸成、広域連携や住民参加・協働のほか、民間の活力・競争力の向上なども挙げられる。だが、いずれも達成・完結したわけではなく、さらに充実や拡大を図っていくことがこの地域の活性化につながるものと確信する。加えて、これまでに整備したステージや設置した恒久作品は、地域の核施設や貴重な観光資源でもあるため、それらを有機的に連携させるなど一層の活用を図っていくことが、通年観光への第一歩であるうえ、他の地域に負けないオンリーワンの魅力づくりになると考える。さらに、会期後に行った実行委員へのアンケートでは、第4回以降も継続して開催すべきかの問いに対して、88.2%の委員が「継続すべき」または「どちらかといえば継続すべき」と回答している結果も踏まえる必要がある。(詳細は「参考資料」9を参照。)

このため、下記のとおり事業主体や事業規模など必要な検討を前提に、今後も大地の芸術祭を開催していくべきと考える。

●今後の進め方

次に、前章までの考察の結果として、これまでの芸術祭の進め方における特に不十分な点や大きな課題を挙げると、①より多くの住民参加と理解、②事業の透明性の確保、③民間事業者や観光資源・施設との緊密な連携、④公費依存からの脱却、となり、とりわけ④に関しては市町財政が今後一段と深刻な状況を迎えるため、これまでどおりの公費負担が困難であることを念頭に置かなければならない。これらを踏まえつつ以下に、今後の方向性を示すこととしたい。

まず上記①と②は、住民参加や情報公開の新たな仕組みの導入など、引き続き様々な工夫を重ねるとともに善処していかなければならない。次に③と④については、個々の対応ではなく一体的な解決を図るため、民間主導による開催を視野に入れ、望むべき事業主体の検討が必要と考える。これは行政主導であったものを安易に民間へスライドさせるということではなく、行政による一定の経費負担のもと、芸術祭の目的実現と企業活動の機会創出を同時に図るものであり、双方のメリットを追求するものである。特に民間活力には、持前の創意工夫と機動力、あるいは蓄積されたノウハウなどの活用により、芸術祭をビジネスとして成立させることを期待したい。また一方、行政側では、組織化の検討にとどまらず、事業規模と公費に代わる資金の調達方法、及び民間事業者とのネットワークの構築など様々な課題を十分検討のうえ解決していかなければならない。

今後ただちに、前述の課題等について十分な議論を重ね、行政と民間との役割分担を明確にしつつ新たな協力関係を築き上げ、次回の芸術祭の開催に向けて、さらなる住民の参加・協力を得ながら、これまでを凌ぐ成果を得るよう準備を鋭意進めていく。

(参考資料)

第3回大地の芸術祭 各種データ

会期：2006.7.23（日）～9.10（日）50日間

1. 交流人口に関するデータ

①全体の入込者数

(単位：人)

区分	7/23～8/6	8/7～8/20	8/21～9/3	9/4～9/10	合計
アート作品鑑賞者 a (ステージ入館者数含)	61,280	97,361	116,036	59,828	334,505
※1日当鑑賞者数	4,085	6,954	8,288	8,547	6,690
関連イベント参加者 b	7,307	3,552	2,633	1,000	14,492
合 計 a+b	68,587	100,913	118,669	60,828	348,997

※前回 205,100 人と比較して、70.2%の増加。

※入込者のうち「県内から」と「県外から」の各数は把握できないが、参考までに、実施したアンケート結果から大まかな推計をすると、県内 13 万人、県外 22 万人となる。(アンケート回収数 403 のうち、県内協力者 150 人、県外協力者 253 人であった。)

②エリア別入込者数

(単位：人)

	十日町	川西	中里	松代	松之山	津南	合 計
アート作品鑑賞者	97,026	39,492	40,270	76,583	71,343	9,791	334,505
関連イベント参加者	3,657	1,166	4,491	4,235	348	595	14,492
合 計	100,683	40,658	44,761	80,818	71,691	10,386	348,997

2. 交通システムに関するデータ

①ほくほく線乗降人員

駅名	2005 年	2006 年	前年比
十日町駅	58,346 人	70,730 人	+21%
まつだい駅	11,002 人	16,493 人	+50%
合計	69,348 人	87,223 人	+26%

※第3回展は特急利用やJRびゅう商品、記念切符の発売に伴い乗降人員による比較。

②JR 十日町駅営業実績 (収入金額の対前年比)

	05 年 7 月	06 年 7 月	05 年 8 月	06 年 8 月	05 年 9 月	06 年 9 月
十日町駅	100.7%	99.6%	96.7%	108.2%	116.0%	129.4%
飯山線営業所	97.7%	94.2%	97.7%	104.8%	99.9%	113.3%
長野支社計	99.2%	96.6%	95.4%	99.1%	98.2%	100.9%

※ワンマン運行や西口改札の利用を考慮し、乗降人員は集計をしていないため収入金額による比較。

③観光バス

	十日町駅発コース						まつだい駅 発コース	計
運行会社	越後交通㈱						頸城自動車㈱	
ツアーコース	北回り		南回り		ダイジェスト		松代・松之 山エリア	
	①	②	①	②	一日	午後		
運行日	奇数日及 び土日	偶数日及 び土日	奇数日及 び土日	偶数日及 び土日	土日		土日・お盆	—
作品ガイド	有	有	有	有	有		有	—
バスガイド	無	無	無	無	有		無	—
昼食	有	有	有	有	無		有	—
事前予約	要	要	要	要	不要		要	—
運行車輛（バス）	中型	中型	中型	中型	大型		中型	—
運行回数（回）	34	29	32	30	15		18	158
運行台数（台）	49	35	51	37	30		25	227
乗車料金（円）	5,500				4,000	3,000	5,500	—
乗車人数（人）	803	517	966	582	747	166	479	4,260
1台平均乗車人数	16.4	14.8	18.9	15.7	30.4		19.2	18.8
1日最高乗車人数	65	50	85	57	160		58	401
1日最小乗車人数	1	2	1	2	9		2	2

※北回り・南回りツアーコースは長岡～越後湯沢経由。

※平日は「北回り①」、「北回り②」、「南回り①」、「南回り②」の4コースのうち「北回り①」・「南回り①」が奇数日、「北回り②」・「南回り②」が偶数日として2コースずつが日替わりで運行。土日は「北回り①」、「北回り②」・「南回り①」、「南回り②」、「ダイジェスト」、「松代・松之山エリア」の6コースが運行。ただし、「ダイジェスト」は8/12、13を除く土日運行、「松代・松之山エリア」のお盆運行は8/14、15、16。

④シャトルバス

	津南⇄松之山
運行会社	越後交通㈱
作品ガイド	無
運行車輛（バス）	大型
運行回数（回）	7往復/日
運行日数（日）	50
一日乗車料金（円）	1,000
乗車人数（人）	688
1台平均乗車人数	1
1日最高乗車人数	84
1日最小乗車人数	0

運行経路

マウンテンパーク津南～上野～津南役場前～津南
駅～上蝦池～東川～キヨロロ

※始発・最終便に十日町駅西口に乗り入れ

※一日乗車料金の小学生以下は500円

⑤タクシー

	鑑賞タクシーコース														
コース	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	他	計
運行回数	65	99	153	149	12	11	7	11	27	6	1	159	21	4	725
乗車人数	216	204	451	392	34	57	31	26	73	16	1	831	51	7	2,390

※この他に時間貸切：計 255 時間

⑥レンタカー

(十日町管内の累計)

	レンタカー利用実績
利用台数	1,192
利用人数	2,784

参考；(越後湯沢駅)

	レンタカー利用実績
利用台数	1,067

⑦レンタサイクル

	十日町駅西口案内所	十日町トリエンナーレセンター	松代トリエンナーレセンター
配置台数(台)	10	10	10
貸出日数(日)	50	50	50
合計利用件数	363	382	310
平均利用件数	7.3	7.6	6.2
1日最高利用件数	15	21	18

⑧レンタスクーター

	十日町駅東口案内所	十日町トリエンナーレセンター	松代トリエンナーレセンター
配置台数(台)	2	1	5
貸出日数(日)	50	50	50
合計利用件数	58	23	88
平均利用件数	1.2	0.5	1.8
1日最高利用件数	3	1	5

3. サイン看板に関するデータ

	十日町	川西	津南	中里	松代	松之山	圏域	計
トリエンナーレサインシート	1	1	1	1	1	1	—	6
コヘビステーションサインシート	1	1	1	1	1	1	—	6
作品誘導【広域設置】	159	116	43	75	106	131	0	630
作品誘導【エリア設置】	60	20	12	55	0	0	68	215
A4作品看板	119	68	22	51	109	39	1	409
駅前歓迎看板	2	—	—	—	—	—	—	2

※その他にのぼり旗を全域で 400 枚掲出。

4 広報関係・視察・ツアー

①広報宣伝

【印刷物】

- ◇パンフレット（A4見開き型）175,000部
- ◇ポスター（B2サイズ）3,100枚
- ◇ガイドマップ（B2折込型）54,000部 ※うち約23,848部を圏域内に全戸配布。
- ◇ガイドブック（B5変型）18,500部 ※㈱美術出版社が作成。
- ◇JR駅貼り用ポスター（B1サイズ）1,000枚（首都圏800枚、県内200枚を掲出。）
- ◇JR駅配布用チラシ（A4サイズ）80,000枚（東京駅・上野駅、高崎・新潟支社管内に配布。）
- ◇JR車内用ポスター（B3サイズ）300枚
- ◇越後交通 車内ポスター（B3サイズ）300枚

【テレビ】（会期終了までの主なもの）

- 5/28 テレビ朝日「スーパーJチャンネル」
- 7/13 テレビ新潟「テレビ伝言板」
- 7/15 新潟総合テレビ「スマイルスタジアム」
- 7/20 富山テレビ（北陸4県オンエア）
- 7/23 NHK「おはよう日本」（及び7/29の2回）
- 7/24 テレビ新潟「夕方ワイド新潟一番」（～7/27の4日間）
- 7/27 TV東京
- 7/29 テレビ朝日「朝だ！生です 旅サラダ」
- 8/12 NT21「陽気なトランポリン」
- 8/20 NHK 新日曜美術館
- 8/25 NHK「お元気ですか日本列島」
- 9/1 NHK「きらっと新潟」

※上記のほかCM（スポット広告）あり。

【ラジオ】（会期終了までの主なもの）

- 7/6 FM PORT「タウン・クロッシング」
- 7/7 NHK-FM「サンセットパーク」
- 7/10 BSNラジオ「新潟キリン情報局」
- 7/15 BSNラジオ「ほくほく線で一直線」
- 7/30 FM-NIIGATA「FINE」
- 8/1 エフエム新津「にいつ情報ポケット」
- 8/6 FMポート
- 8/26 BSNラジオ「ほくほく線で一直線」
- 9/2 エフエムいわき

※上記に加えてエフエムとおかまちが特集などで多数オンエア。また上記のほかCM（スポット広告）あり。

【新聞】（4月～9月で把握できたもの）

- ◇全国紙：30回（概数）
朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞、産経新聞ほか
- ◇地方紙、業界紙：40回（概数）
愛媛新聞、熊本日日新聞、信濃毎日新聞、北海道新聞、神戸新聞、日本女性新聞ほか

◇地元紙：350回

新潟日報、十日町新聞、週報とおかまち、十日町タイムス、津南新聞

【雑誌】（4月～9月の主なもの）

◇日経M a s t e r s 「共同、協同から、相互扶助の社会へ」（6P特集）

◇月刊N i i g a t aタウン情報

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2006 徹底ガイド」（16P特集）

◇CARREL 「おいしいものとアート in 妻有」（20P特集）

◇おとなのいい旅（東日本版）

「本気でアートしてます。新潟・妻有 大地の芸術祭」（4P）

◇M a c P O W E R 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2006」（10P特集）

◇日経アーキテクチュア「建築家×美術家＝地域再生？」（8P特集）

◇「ミセス」8月号

◇「カーサブルータス」8月号

◇「新建築」9月号

◇「地域創造」（2006 Autumn vol 20）

※上記のほか新聞・雑誌広告あり。

【海外メディア】（会期中と前後に把握できたもの）

◇ル・モンド（フランス・日刊紙）

◇Art Asia-Pacific（アメリカ・美術関係誌）

◇The Sydney Morning Herald（オーストラリア・日刊紙）

◇新華社通信（中国・日刊紙）

◇中央電子台（中国・TV）

◇天下（台湾・経済誌）

◇ABC TV（オーストラリア・TV）

【インターネット関係】

◇会期中50日間のアクセス数：215,597件（1日当たり平均アクセス：4,312件）

◇アクセス最高日：8月21日（月）7,782件

【その他】

◇十日町きものまつりでPR（5/3、ボランティアスタッフ2名とパンフレット約1,000部配布。）

◇表参道・新潟館ネスパスにて首都圏PR（6/3～6/8、来場者：延べ約3,000人）

◇JR車内広告等の掲出（JR東日本）

◇バス全面広告・車内広告の掲出等（越後交通）

◇大地の芸術祭記念乗車券の発行（北越急行）

②視察団体及び個人（事務局窓口分）

- ・十日町市観光リゾート対策特別委員会
- ・全税共文化財団
- ・サントリー株式会社
- ・埼玉県北本市長
- ・大阪府吹田市長

- ・新潟県知事
- ・群馬県地域創造課
- ・津南町議会
- ・新潟市
- ・新潟県副知事
- ・十日町商工会議所常議員
- ・熊本県知事
- ・長野県知事

③ツアー関係（事務局窓口分）

- ・十日町地区タクシー協会
- ・市町特別職等ツアー
- ・十日町市観光協会及び旅館組合ツアー
- ・小白倉吉川教室ツアー
- ・水沢公民館生け花講座ツアー
- ・川西地区住民ツアー（3回）
- ・水沢公民館利用団体協議会ツアー
- ・川治公民館健康教室ツアー
- ・松寿大学ツアー
- ・松之山地区老人会ツアー
- ・中里老人クラブツアー
- ・地元ボランティア、臨時職員ツアー
- ・地元プレスツアー
- ・松代公民館きらく塾ツアー
- ・中央公民館明石学級生け花コースツアー
- ・中央公民館明石学級料理コースツアー
- ・公民館長会ツアー
- ・東京十日町会ツアー
- ・中里親睦会ツアー
- ・横越村地域づくり団体ツアー
- ・松代老人クラブツアー
- ・湯沢砂防広報センターツアー

5. 主な国県事業

事業名	市町	分類	備考
ステージ支援道路整備事業 十日町ステージ支援	十日町市	十日町六日町線	H13～H17
ステージ支援道路整備事業 松之山ステージ支援	十日町市	松代松之山線	H13～H17
大地の芸術祭支援事業（県単公共）	十日町市	公共施設 6 施設	H16～H17
大地の芸術祭支援事業（県単公共）道路改良	十日町市	松代松之山線	H17
県単事業地方特定道路整備	十日町市	松代松之山線	H18
県単事業ゆくらの原っぱ水辺公園事業	十日町市	ゆくらの原っぱ水辺公園	H13～H16
県単事業道路改修	十日町市	石黒松代線	H16
県単事業道路改修	十日町市	五十子平真田線	H16～H18

6. ポケットパーク作品（県支援事業）一覧

エリア	設置場所	作家名	作品名
十日町	神明水辺公園	ドミニク・ペロー	バタフライパビリオン
	鉄柄沢	小川次郎／日本工業大学小川研究室	マッドメン
川西	上野	内田繁	境界の神話

	川西高校入口バス 待合所付近	足高寛美	パッセージ
中里	芋川	吉田明	エターナル
松代	桐山	リチャード・ディーコン	マウンテン

※後出「8. 作品・イベント一覧表」で再掲。

7. パスポート等販売実績表

区 分	2000 年(第1回)		2003 年 (第2回)		2006 年 (第3回)	
	枚数	金額 (円)	枚数	金額(円)	枚数	金額(円)
一般	26,621	37,762,180	14,917	32,059,200	41,203	111,446,750
大学(高校)・シルバー	2,590	2,835,098	4,694	8,384,800	4,337	10,551,500
小中(高)生	847	465,242	839	587,300	5,325	3,618,900
小 計①	30,058	41,062,520	20,450	41,031,300	50,865	125,617,150
地域・一般	—	—	8,487	4,243,500	10,492	10,492,000
地域・小中学生	—	—	6,837	無料配布	8,658	無料配布
小 計②	—	—	8,487	4,243,500	10,492	10,492,000
1 日パス券	—	—	—	—	1,443	2,569,400
個別鑑賞料金一般	1,802	901,000	3,902	780,400	37,972	13,097,800
個別鑑賞料金小学生	165	41,250				
小 計③	1,967	942,250	3,902	780,400	39,415	15,667,200
手数料等④	—	65,522	—	2,452,691	—	8,665,716
合計(①+②+③)－④	32,025	41,939,248	32,839	43,602,509	100,772	143,110,634

※2000 年、2003 年の学生・シルバー券は大学・シルバー、2006 年では高校生を含む。2000 年、2003 年の小中高校生券に対応する学生券は 2006 年では小中学生のみ。

※2006 年は県内小中高校生に無料パスポート引換券を配付。

●パスポート価格等

(単位：円)

	一般	大学・シ ルバー	小中(高)	地域・一 般	地域・小 中	個別鑑賞 料一般	個別鑑賞 料小中
2000 年	1,700	1,200	700	—	—	500	250
2003 年	2,400	1,600	700	500	無料配布	200	—
2006 年	3,500	2,500	800	1,000	無料配布	300~500	半額

※パスポート価格は当日販売価格。

※地域パスポートは、2000 年は全世帯無料配布。2003 年より有料販売。但し、圏域内の小中学生には無料配布。2006 年は県内小中高校生に無料パスポート引換券を配付。

8. 作品・イベント一覧表

(1) 作品一覧 (2006 年新規のみ計 205 点)

※表内の●列の番号はガイドブック等に表示したもの。また、備考欄の「恒久」は予定。

①十日町エリア (80 作品)

NO	●	作家名	作品名	設置場所	備考
1	2	ドミニク・ペロー	バタフライパビリオン	神明水辺公園	恒久
2	5	芹川智一	田園の中の異国 ing(OUTLAND)	中峰スキー場横	
3	6	矢島路絵	テラー青い花プロジェクト	中峰スキー場	

4	7	手塚愛子	①ねこつぐら、暗い穴 ②総糸－雪総	平、二子	
5	8	フィロズ・マハムド	極東の第9世代	広域エリア	
6	9	戸高千世子	山中堤 スパイラル・ワーク	願入	
7	10	松岡真澄	蓮渡り－逸楽郷へー	願入	
8	11	山本浩二	フロギストン	願入	
9	12	古郡弘	胞衣－みしゃぐち	願入	恒久
10	13	澤清嗣	こもる壺・はじける壺	願入	
11	14	原憲司	自然と生成－素材への畏怖	願入	
12	15	中村卓夫	土と色彩の旋律－空間の装い	願入	
13	16	吉川水城	たゆたい、うつろいゆく形の美しさ	願入	
14	17	吉田明	曙光－妻有焼の誕生	願入	
15	18	川上清美	玄界灘の交感－唐津	願入	
16	19	黒田泰蔵	白い風－光の茶室	願入	
17	20	鈴木五郎	緑色の太陽－闇の茶室	願入	
18	21	福島光加	花の気配	願入	
19	22	山田幸則	往ったり来たり－Come and go	二子	
20	23	木村吉邦	安堀雄文記念館	上新田	
21	24	李明維（リー・ミンウェイ）	帰省計画	上新田	
22	25	スーメイ・ツェ	帰省計画	上新田	
23	26	アンナ・オダール	帰省計画	上新田	
24	27	開発好明	かまぼこフェイス	新水	
25	28	山口啓介	光の庭、三ツ山5つの空気柱	三ツ山	
26	29	櫃尾正次	田毎の月－華 自在－三ツ山に捧ぐ	三ツ山	
27	30	本間純	しずく	三ツ山	
28	31	カルロス・ガライコア	喪失 2006	山新田	
29	32	瀬戸川満理子	「月庵」を愛でる	山新田	
30	33	小川次郎／日本工業大学小川研究室	マッドメン	鯉柄沢	恒久
31	34	アイシャ・エルクメン	ここで何が起きたのか	池沢	
32	35	ドミトリ・グトフ	掛け軸	池沢	
33	36	安奎哲（アン・ギュンチャル）	記憶の扉	船坂	
34	37	彦坂尚嘉＋《気》派	田麦《とまとアートの館》物語	田麦	
35	38	ビリ・ビジョカ	田麦の本	田麦	
36	39	加治瑞穂	Re-Analemma－反転するアナレマの再生－	川治	
37	41	渡辺泰幸	土の音	土市	
38	42	李秀京（イ・スークン）	最もよい彫刻	土市	
39	43	ナン・フーバー	痕跡	土市	
40	44	アルフレド&イザベル・アキリザン	ドリーム・ブランケット・プロジェクト	土市	
41	45	行武治美	再構築	当間	恒久
42	46	ヘンリック・ハカンソン	音の波	当間	
43	47	エルネスト・ネト	水玉の壁と秘密の贈り物、見えない寺院	南鑑坂	
44	48	栗田宏一	ソイル・ライブラリープロジェクト／越後	南鑑坂	
45	49	ヴィヴィアン・リース	里山ストアハウス	鉢	
46	50	リナ・バナジー	場所の魅力	鉢	

47	51	ヒグマ春夫	水の記憶・反復と再生プロジェクト	鉢	
48	52	ユニット00 (ぜろぜろ)	教室の夢	鉢	
49	54	エッケ・ボンク	音波天文台/宇宙の光	鉢	
50	56	倉谷拓朴	名ヶ山写真館	名ヶ山	
51	57	ムタズ・ナスル	夢	名ヶ山	
52	58	菊池歩	こころの花ーあの頃へ	中平	
53	60	ZING+DOTSU (ジング+ドゥツ)	妻有の入口	広域 (キナーレ・農舞台・神明水辺公園)	
54	64	原游	Indirect Mail 時間差レター	キナーレ	
55	65	ジョアナ・ヴァスコンセロス	ボトルの中のメッセージ	キナーレ	
56	66	藤木隆明+工学院大学藤木研究室	水景色	キナーレ	
57	67	SLIPPED DISK/椿原章代	もじもじ pictures NO. 39「えちごつまり」のアート	キナーレ	
58	68	ナウイン・プロダクション有限公司 (ナウイン・ラワンチャイクン)	こへび物語り	キナーレ	
59	69	伊藤嘉朗	ツール・ド・妻有	キナーレ	
60	70	久保美沙登	Cross Clothe KT	キナーレ	
61	71	林剛人丸	曳航機と滑空機	キナーレ	
62	72	新井厚子	ウチの有名人ーそうさく計画	キナーレ	
63	73	ヘルガ・グリフィス	サムシング・イン・ザ・エア II	キナーレ	
64	74	ゼロゼロエスエス (松岡武)	ヒゲ・プロジェクト	キナーレ	
65	77	フタボンコ	あなたのあかり	広域 (キナーレ)	
66	78	鈴木えみ	TSUMARING	広域 (キナーレ)	
67	79	木沢和子	じよんのひ幟プロジェクト	中心市街地	
68	80	千葉大学栗生明研究室(有志)	ユキノミチ	中心市街地	
69	81	CAWC (チャイルド・アート・ワークショップ・カンパニー)	ラーニングアート・ワークショップ「学びの繭」展ー文化を語る子どもたちー	中心市街地	
70	82	レアンドロ・エルリッヒ	妻有の家	中心市街地	
71	83	杉浦久子+杉浦友哉 昭和女子大学杉浦ゼミ	幸 (ユキ) のウチ	中心市街地	
72	84	原高史	Signs of Memory 十日町学校町一丁目の窓ー窓から発するそれぞれの声	中心市街地	
73	85	向井山朋子	アサヒビールロビーコンサート in 越後妻有「lineー線」	中央公民館	
74	87	守屋行彬&小串里子	インスタレーション&ワークショップ「ピュアランドの夏祭り」	中心市街地	
75	88	ノベール・フランシス・アタール	親しき物の貯蔵庫	中心市街地	
76	89	パブロ・レイノソ	編まれた影	中心市街地	
77	90	アニラ・ルビク	ミラノー東京：往復便	中心市街地	
78	91	譚偉平 (タム・ワイピン)	階段	中心市街地/塩ノ又	
79	93	眞田岳彦	「越後の布」プロジェクト	十日町市博物館/キナーレ	

80	95	やさしい美術プロジェクト	竹ランプ	(非公開)	
----	----	--------------	------	-------	--

②川西エリア (37 作品)

NO	●	作家名	作品名	設置場所	備考
81	96	塩澤徳子	ライス・アースー大地の米ー	野口	
82	98	三木俊治	里山交響曲／みんなおんなじ地球の子	仁田	恒久
83	99	内田繁	境界の神話	上野	恒久
84	100	足高寛美	パッセージ	川西高校入口バス待合所付近	恒久
85	101	朝岡あかね	TMR (妻有空港) 計画～田んぼのエアポート	中屋敷	
86	102	鈴木淳子+沖啓介	祈りの船	元町	
87	103	トゥー・ザ・ウッズ	ベリー・スプーン	ナカゴグリーンパーク	
88	104	宿南泉	囲まれている	ナカゴグリーンパーク	
89	120	関口恒男	越後妻有レインボーハット	節黒城跡	
90	123	関直美	ようこそ仙田農村公園へ	中仙田	
91	124	カアリナ・カイコネン	明日に架ける橋のように	中仙田	
92	125	木村育子	農閑期	大白倉	
93	126	パヴェル・ムルクス	水物語の家	大白倉	
94	127	つやま芸術推進委員会	PAPER PROJECT／津山の紙ー妻有の光	小白倉	
95	128	大塚理司	小白倉いけばな美術館	小白倉	
96	129	下田尚利			
97	130	古川知泉			
98	131	宇田川理翁			
99	132	大吉昌山			
100	133	吉川芳山			
101	134	長井理一			
102	135	早川尚洞			
103	136	日向雄一郎			
104	137	伊藤庭花			
105	138	粕谷明弘			
106	139	松本司			
107	140	谷口雅邦			
108	141	日向洋一			
109	142	吉村華洲			
110	143	太田光	小白倉いけばな美術館	小白倉	
111	144	千羽理應			
112	145	千羽理芳			
113	146	かとうさとる			
114	147	松田隆作			
115	148	吉村隆			
116	149	春日部幹			
117	151	丹治嘉彦+橋本学			
			ブランチ・プロジェクト	田戸	
			再生・海そして川から	小脇	

③津南エリア (10 作品)

NO	●	作家名	作品名	設置場所	備考
118	152	霜鳥健二	「記憶ー記録」足滝の人びと	足滝	
119	153	原すがね	弾／彼岸の家	足滝	
120	154	池田光宏	ポップ アップ・プロジェクト・足滝バージョン	足滝	

121	156	クイビーン・オフラハラ	涙雲	上野	
122	157	鈴木明+藤山哲朗+ 神戸芸術工科大学大 学院	ツマリカモ	上野・マウンテンパーク	
123	158	蔡國強 (ツァイ・グ オチャン)	ドラゴン現代美術館	上野・マウンテンパーク	新規 提案
124	159	宮永甲太郎	脈	ドラゴン現代美術館内	
125	164	景山健	ここにおいて 妻有 2006	上野・マウンテンパーク	
126	165	荒川匠、ユタ・コータ、 ジェイ・サンダース、 エミリー・サンドブラ ッド、 ステファン・チェレブ ニン、特別ゲスト	グラント・オープニングス in 津南高校	津南高校	
127	169	小日向千秋	土中にて	卯ノ木・なじょもん	恒久

④中里エリア (21 作品)

NO	●	作家名	作品名	設置場所	備考
128	170	井出創太郎+高浜利 也	小出の家	小出	
129	172	芝裕子	大地のグルグル	東田尻	
130	173	青木野枝	空の水-V	白羽毛	
131	174	木村崇人	星の木もれ陽プロジェクト	市之越・清津スキー場	
132	175	出月秀明	森とつながる	桔梗原	
133	176	内海昭子	たくさんの失われた窓のため に	桔梗原	
134	177	吉田明	エターナル	芋川	
135	179	ウシャ	静寂の層	倉俣	
136	180	半田真規	ブランコはブランコでなく	倉俣地区一帯	
137	181	山田良+山田綾子	中里重地パブリック・アクセ ス・ネックレス	重地	
138	182	アン・グラハム	フィッシング・ハウス	田代	
139	183	ダダン・クリスタント	カクラ・クルクル・アット・ツ マリ	清田山	
140	184	ルイジ・ベルトラム (パレ・ド・トーキョ ー)	ヘテロトピアへようこそ	清田山	
141	185	アンジェラ・デタニコ &ラファエル・レイ ン (パレ・ド・トーキョ ー)			
142	186	ジェラル・ブティ (パ レ・ド・トーキョー)			
143	187	田中功起 (パレ・ド・ トーキョー)			
144	196	槻橋修+東北工業大 学 TEAM PARKLETTE	パークレット	ミオンなかさと	
145	197	刀裨尚子+飯島敦義	田圃の枯山水	宮中	
146	198	前田光彦	「光の巣」 -A Light Nest 2006	宮中	
147	199	中澤克巳	フローティング・バンブー	本屋敷	
148	200	水澤尚子	僕らの農業	本屋敷	

⑤松代エリア (45 作品)

NO	●	作家名	作品名	設置場所	備考
149	201	中村敬	くじら屋根の美術館	儀明	
150	202	中瀬康志	儀明劇場一倉一「地平の器」	儀明	
151	203	文楽座 吉田勘緑	まつだい文楽劇場	儀明、農舞台	
152	205	日比野克彦	明後日新聞社文化事業部ー 昨日テレビ局広報宣伝部	苅平	
153	206	酒百宏一	ライフ・ワーク+みどりの部屋 プロジェクト	仙納	
154	207	石松丈佳	田野倉環境感知器	田野倉	
155	208	斎藤美奈子	メモリーー田野倉プロジェクト	田野倉	
156	209	古巻和芳+夜間工房	繭の家ー養蚕プロジェクト	蓬平	
157	215	リチャード・ディーコン	マウンテン	桐山	恒久
158	216	マリア・ヴィルツカラ	TIRAMI SU 3 持ち上げてー行っ たり来たり	桐山	
159	217	みかんぐみ+ BankART1929	BankART 妻有	桐山	
160	218	小島千雪	ほ・ほ／リズムカルム	松代	
161	219	小林豊	ヤギの家	松代小学校	
162	220	鈴木寅二啓之	土間の寝室	松代商店街	
163	221	キンシーズ	キンシーズ!	農舞台	
164	222	池田緑	家の年齢プロジェクト	松代商店街	
165	223	村木薫	松代商店街周辺における土壁 による修景プロジェクト	松代商店街	
166	224	緒方篤	不老長寿	松代商店街	
167	225	武蔵野美術大学建築 学科 土屋公雄スタ ジオ	松代商店街ー竹環プロジェク ト	松代商店街	
168	226	オノレ・ドゥオー	法廷	松代商店街	
169	227	ホルヘ・バルビ	緑の道 白い道	松代商店街	
170	230	塩澤宏信	イナゴハビタンボ	犬伏	恒久
171	233	関根哲男	ワンダフル赤ふん少年	小荒戸	
172	237	キタバランドスケー ププランニング	まつだい農舞台くランドスケ ープ・マスタープラン>	農舞台	
173	241	アントニオ・カルルッ チオ	静かな狩り	農舞台	
174	243	岡部俊彦	ワールド エナジー システ ム	農舞台	
175	244	ヴァンサン・デュ=ボ ア	ライス・ルーム	農舞台	
176	245	ベン・モリエソン	燃焼 2006 ラジコン・イン・越 後妻有	農舞台	
177	246	中馬芳子+スクー ル・オブ・ハードノッ クス・ジャパン	A Page Out of Order/狂った 1 ページ	農舞台	
178	247	ニブロール	NO DIRECTION, everyday	農舞台	
179	248	森繁哉	越後妻有芸能プロジェクト	農舞台、全域	
180	253	渡辺泰幸	土の音ーまつだい	農舞台	
181	266	仙石克己+女子美術 大学芸術学科学生	刻の投影ー大地からー	松代城山	
182	279	深川資料館通り商店 街協同組合 +Qrr ART 白濱万亀	かかしの嫁入り	松代城山	
183	282	セシル・アンドリュ	空の原稿用紙	千年	

184	283	磯辺行久	農舞楽回廊	室野	
185	284	鬼太鼓座	世界太鼓フェスティバル	室野、農舞台	
186	286	大谷俊一	影 (ei) / 来し方 行く先	室野	
187	287	豊福亮	天竺	室野	
188	288	杉浦康益	風のスクリーン	木和田原	
189	289	日本大学芸術学部彫刻コース有志	脱皮する家	峠	
190	290	グライズデール・アーツ (マーカス・コーテス、ジュノー・プロジェクト、バーナビー・ホスキング、ティム・オルデン、アダム・サザーランド、ニナ・ポープ、カレン・ガースリー、ラリ・チエットウィンド 4)	グライズデール 7 人の侍	峠	
191	291	丸山純子	無音花畑	峠	
192	292	小澤さよ子	私たちはそれを、ありありと憶い浮かべることができる	峠	
193	293	吉井講二+水組・花組・石組	TOGE 夏の庭	峠	

⑥松之山エリア (12 作品)

NO	●	作家名	作品名	設置場所	備考
194	295	アイガルス・ビクシェ	ラトビアから遠い日本へ	小谷	
195	301	橋本典久+scope	life-size	森の学校キョロロ	
196	303	大成哲雄	棚田弁当	森の学校キョロロ	
197	307	スー・ペドレー	はぜ	森の学校キョロロ付近	
198	314	阪田清子	残華—松之山分校	県立安塚高等学校松之山分校	
199	316	ナリ・ワード	スマイル・プロジェクト	浦田	
200	317	さとうゆき	うたうこと、はねること	浦田	
201	318	プロスペクター	コンタクト—足湯プロジェクト	浦田	
202	326	前山忠	新視界・湯山の家	湯山	
203	327	潮田友子、東京芸術大学坂口研究室	行商—物々交換—記憶の部屋、ハッピネスストーンハウス	坪野	
204	328	竹内美紀子	はがきプロジェクト	上鰯池	
205	329	クリスチャン・ボルタンスキー+ジャン・カルマン	最後の教室	東川	恒久

(2) 主要イベント一覧

開催日	イベント名 (会場)	来場者数
7 月 22 日 (土)	前夜祭・中越大震災復興祈願「妻有観世能」 (神明水辺公園能舞台「バタフライパビリオン」)	800 人
7 月 23 日 (日)	開会式 (越後妻有交流館キナーレ)	700 人
7 月 25 日 (火)	アサヒビールロビーコンサート in 越後妻有 向井山朋子ピアノリサイタル「line-線」(十日町市市民会館)	400 人

7月29日(土)	環太平洋楽コンサート (まつだい農舞台)	200 人
7月29日(土)～ 9月9日(土)	越後妻有芸能プロジェクト (まつだい農舞台ほか)	計 620 人
8月5日(土) ～8月6日(日)	地球環境セミナー (三省地区コミュニティ施設)	計 130 人
8月5日(土) ～8月6日(日)	世界太鼓フェスティバル (農舞楽回廊、まつだい農舞台)	計 1,600 人
8月10日(土) ～8月11日(日)	「越後の衣服」キモノファッションショー (作品「ユキノミチ」内)	計 400 人
8月12日(土)	中馬芳子+スクール・オブ・ハードノックス・ジャパン A Page Out of Order/狂った1ページ (まつだい農舞台)	120 人
8月13日(日)	「松代の杜」横浜ボートシアター語り公演 宮沢賢治作『洞熊学校を卒業した3人』(松代城山 小林重予作品)	60 人
8月19日(日)	越後ヤッホープロジェクト (松之山エリア)	29 人
8月19日(日)	ニブロール公演 NO DIRECTION, everybody (まつだい農舞台)	190 人
8月25日(金)	キンシーズ公演 キンシーズ! (まつだい農舞台)	200 人
8月29日(火)	グランド・オープニングス in 津南高校 (津南高校)	300 人
9月2日(土) ～9月3日(日)	まつだい文楽劇場 (儀明劇場「倉」、まつだい農舞台)	計 700 人
9月10日(日)	閉会式 (清津川フレッシュパーク)	1,000 人
	その他各種イベント・ワークショップ	計 7,043 人

9. アンケート結果

(1) 大地の芸術祭実行委員対象 大地の芸術祭にかかわるアンケート集計まとめ

対 象：大地の芸術祭実行委員

(ただし、十日町市、津南町及び新潟県十日町地域振興局の職員を除く 61 名)

期 間：9月25日(月)～10月6日(金)

回収枚数：51 枚 (回収率 83.6%)

問1. 第3回大地の芸術祭—アートトリエンナーレ2006—は、成功だったと感じていますか。当てはまるもの一つに○印をしてください。

- ア 成功だった . . . 36 (70.6%)
- イ どちらかといえば成功だった . . . 13 (25.5%)
- ウ どちらかといえば成功ではなかった . . . 2 (3.9%)
- エ 成功ではなかった . . . 0 (0.0%)

問2. 平成12年度から3回にわたり開催された大地の芸術祭によって、当地域が活性化したと感じていますか。当てはまるもの一つに○印をしてください。

ア 感じている	・・・25 (49.0%)
イ どちらかといえば感じている	・・・21 (41.2%)
ウ どちらかといえば感じていない	・・・5 (9.8%)
エ 感じていない	・・・0 (0.0%)

問3. 問2で「感じている」または「どちらかといえば感じている」と答えた方のみお答えください。具体的には、地域のどのような面が活性化されたと感じていますか。当てはまるものすべてに○印をしてください。

ア 集落や町内など地域の活動が活発になった	・・・29 (63.0%)
イ 商店街など売上げが増え、活性化した	・・・11 (23.9%)
ウ 観光資源や地域の魅力が増えた	・・・26 (56.5%)
エ 文化的な環境が豊かになった	・・・17 (37.0%)
オ 来訪者により街の賑わいが増えた	・・・21 (45.7%)
カ その他	・・・9 (19.6%)
・十日町市を「芸術都市」として街作りをしていく基盤ができた。	
・ほくほく線の利用客がある程度増した。	
・多少にかかわらず、地域および地域の人々が自信をもてたではないか。	
・新聞・TV等のメディアに取り上げられたことにより、外部に対して地域の宣伝効果があった。	
・経済的效果があった。	
・児童生徒が美術、芸術、この地にはないものに興味を持ち、視野が広がった。	
・イベントを商売に結びつける動きがようやく始まった。	
・あらためて地域の見つめ直しができた。	
・ホテル、食堂、売上げが増えた。	

問4. 今回で当初から予定されていた3回の芸術祭が終了しましたが、第4回以降も継続して開催すべきだと考えていますか。当てはまるもの一つに○印をしてください。

ア 継続すべき	・・・32 (62.7%)
イ どちらかといえば継続すべき	・・・13 (25.5%)
ウ どちらかといえば継続すべきではない	・・・2 (3.9%)
エ 継続すべきではない	・・・3 (5.9%)
無回答	・・・1 (2.0%)

問5. 問4で「継続すべき」または「どちらかといえば継続すべき」と答えた方のみお答えください。4回目以降も継続して開催するとしたら、どのようなあり方で継続すべきだと考えますか。アとイどちらかに○印をしてください。

ア 従来どおりのあり方で開催	・・・15 (33.3%)
イ 従来のあるあり方を見直して開催	・・・30 (66.7%)

→a. 予算規模を見直す

(拡大の方向で・・・5、縮小の方向で・・・12)

b. 作品数・作家数を見直す

(拡大の方向で・・・4、縮小の方向で・・・17、両方の検討を・・・2)

c. 運営主体・体制を変える・・・17

- ・ AFGだけでなく地元の民をかなり入れた実行委員会体制(芸協も巻き込む)
- ・ 住民主導が理想的を考えてはいるが、非常に難しいと思います。あくまで行政を窓口。
- ・ NPOで
- ・ 予算がなければスポンサーを1社決め、冠をつけたものでもしょうがない。
- ・ AFGから民間へ。
- ・ いつまでも他力本願ではなく、地域で運営できるよう方向を変えていくべきです。もちろん、地域だけでは無理ですが、地域が主になるようにしなければならないと思います。
- ・ 他所から来場者があることは過疎地の閉塞感に刺激を与えてよい。ただ一部中心地、旅館等を除けば、その他の地区住民にはほとんど実利は無い。(土地を提供するだけの芸術祭) ほとんど駐車場確保の困惑とトイレ提供のみの結果に終わってしまう。その他の地区では全く他人事の行事という感覚。作品についても、これが芸術？と思う人が多い。終了した後の片付けや後始末に困るような作品では住民はそっぽを向く。したがって、もっと作品を選定してはどうか。地元に残るもの。地元民が誇りに思うもの。そんな作品だったら、もっと一般住民も関心を持ち、協力し、誇りを持って自分たちの地域が発信する芸術祭として歓迎するのではないか。(指揮官も労力支援も外部団体に頼らざるを得ない現状ではむずかしいかもしれないが…)
- ・ 年間運営できる体制作りと作品の恒久化をはかる。
- ・ 地域の中から運営委員を選出して行政主導でなくす。
- ・ 実行委員会主導でアートフロントをコントロールする。
- ・ 現代アートも大切ですが地元にも芸術家の団体が有ります。話し合い、連携し、理解しあって進めて頂きたい。
- ・ 市民全体にもう少し働きかけ参加を図る。一部のものにならないように。
- ・ 地元をまきこんだ形でプラン作成を出来ないか。
- ・ 北川先生から安くサービスしてもらったらどうですか。
- ・ もっと色々の地域で物品(野菜・飲食物等)の販売。
- ・ 民営企業をメインとして運営。

d. その他・・・8

- ・ 住民参加型を強くするべきかと。特に市街地です。十日町・津南が一体となって開催する雰囲気づくりが必要。
- ・ 設置のあり方を検討すべきである。広範囲であるため来訪者に十分な鑑賞ができない。

- ・開催時期を変えることにより、同じ作品でもまたちがった感じ方をできるかもしれない・・・。
- ・わかりやすい作品を中心に。
- ・今の体制で続行してもらいたい。
- ・今回は作品の設置場所が大変広範囲で鑑賞よりも見て廻るのがやっとでした。次回はまた商店街に多く設置していただければなという事を強く感じました。
- ・十日町市には他の市に負けない石彫が有ります。全国に、世界に向けて発信できる石彫と連動する芸術祭にするようお願い致します。
- ・経費をかけない方向で実施すべき。

問6. 問4で「継続すべきではない」「どちらかといえば継続すべきではない」と答えた方のみお答えください。継続すべきではないと思われる理由を下の記述欄にご自由にお書きください。

- ・活性化することで失うものがある。
- ・多くの人が地域に入ってくる事で、地域の中で受け継がれてきた伝統文化が失われる恐れがある。
- ・地域文化の継承と地域の活性化のバランスのとれた企画が望まれる。
- ・継続とか中止とか言う前に、費用対効果の詳細な検討・検証が必要だと思う。・経済的効果、・地域の活性化、・知名度・認知度の向上、・作品の今後の活用・期待等々これらに対して投入した費用が見合うものであったのかどうか？これが継続か中止かの判断基準となるのだと思う。
- ・地元の負担が大きすぎる。協働とはいえ、労力を地元にとよりすぎる。
- ・県、市町村の多額の公金を使用したのが、費用対効果を計算すれば疑問が残る。大地の芸術祭による市税の増収はどれ程か公表して欲しい。
- ・お金のかかりすぎ。
- ・作品の説明がない。
- ・作品のある場所が分かりにくい。
- ・最寄駅やバス停から作品のある場所が遠い所は自動車を利用できないと不便。

(2) 第3回大地の芸術祭 作品設置集落・町内に対するアンケート集計結果

対 象：第3回大地の芸術祭作品設置集落・町内代表者(総代・区長、嘱託員など) 69人

※公共施設敷地内や公園等に設置されたものは除いた。

期 間：10月17日(火)～10月27日(金)

回収枚数：53枚 (76.8%)

問1. あなたの集落・町内では、芸術祭の作品が制作・設置されることを希望していましたか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|----------------|
| ア 大いに希望していた | ・・・ 7 (13.2%) |
| イ どちらかといえば希望していた | ・・・ 27 (50.9%) |
| ウ どちらかといえば希望していなかった | ・・・ 7 (13.2%) |
| エ 全く希望していなかった | ・・・ 7 (13.2%) |
| オ どちらともいえない | ・・・ 5 (9.4%) |

問2. あなたの集落・町内では、芸術祭の作品が制作・設置されるにあたり、集落・町内として制作作業や設置作業などに協力する動きがありましたか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

- ア 大いに協力する動きがあった . . . 18 (34.0%)
- イ いくらか協力する動きがあった . . . 27 (50.9%)
- ウ あまり協力する動きはなかった . . . 6 (11.3%)
- エ 全く協力する動きはなかった . . . 1 (1.9%)
- オ どちらともいえない . . . 1 (1.9%)

問3. 問2で「ア」または「イ」と答えた集落・町内のみお答えください。集落・町内として作品の制作・設置などに協力する動きが生まれたきっかけは何ですか。最も当てはまるもの一つに○をつけてください。

- ア 集落・町内の住民の中に、自発的な協力の動きが起きたから . . . 8 (17.8%)
- イ 市役所・役場の担当者から協力の要請があったから . . . 13 (28.9%)
- ウ (株)アートフロントギャラリーの担当者から協力の要請があったから . . . 7 (15.6%)
- エ 作品を制作する作家本人から協力の要請があったから . . . 13 (28.9%)
- オ その他 . . . 4 (8.9%)
 - ・作業の進み具合が遅れていたので、数名が手伝った。
 - ・作家との個人との個人的つながり。集落または地域の役員であったため。
 - ・ア、イ、エ、オの複数回答
 - (具体的記述なし1)

問4. あなたの集落・町内に大地の芸術祭作品が設置されて良かったと感じていますか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

- ア 良かったと感じている . . . 23 (43.4%)
- イ どちらかといえば良かったと感じている . . . 18 (34.0%)
- ウ どちらかといえば良くなかったと感じている . . . 5 (9.4%)
- エ 良くなかったと感じている . . . 0 (0.0%)
- オ どちらとも言えない . . . 7 (13.2%)

問5. 問4で「ア」または「イ」と答えた集落・町内のみお答えください。作品が設置されて良かったと感じているのは、どんなことですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

- ア 作品制作作業などを通して、地域内の人間関係が深まった . . . 11 (26.8%)
- イ 作品制作作業などを通して、地域内の活動が活発になった . . . 10 (24.4%)
- ウ 作品制作作業などを通して、作家やこへび隊など外部の人との交流が生まれた . . . 23 (56.1%)
- エ 作品設置により地域内の文化的環境が豊かになった . . . 5 (12.2%)

- オ 作品鑑賞者が多く訪れ、地域に賑わいが生まれた . . . 22 (53.7%)
- カ 作品設置のために、地域内あるいは地域周辺の道路や駐車場が整備された . . . 3 (7.3%)
- キ その他 . . . 0 (0.0%)

問6. 問4で「ウ」または「エ」と答えた集落・町内のみお答えください。作品が設置されて良くなかったと感じているのは、どんなことですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

- ア 作品制作作業などのために、地域内の人間関係に不和が生じた . . . 2 (40.0%)
- イ 作品制作作業などのために、地域内の他の活動が停滞した . . . 1 (20.0%)
- ウ 作家やこへび隊など外部の人が地域に入ったため、地域内に混乱や戸惑いが生じた . . . 0 (0.0%)
- エ 作品の設置により地域内の景観が乱れた . . . 0 (0.0%)
- オ 芸術祭来訪客のマナーが悪く、地域が迷惑をこうむった . . . 1 (20.0%)
- カ 芸術祭来訪客のマイカーやツアーバスが混雑し、地域住民の交通に支障をきたした . . . 0 (0.0%)
- キ その他 . . . 2 (40.0%)

- ・一時的なもので地域の経済効果がほとんどない。・地域活性化につながらない。
- ・冬期間の管理が心配

※この他、問4で「ア」「イ」と答えた集落の中にも、問6の「イ」「オ」「カ」に○をつけた集落が一つずつあった。

問7. あなたの町内・集落としては、今後も大地の芸術祭が継続されることを希望しますか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

- ア 継続を希望する . . . 12 (22.6%)
- イ どちらかといえば継続を希望する . . . 14 (26.4%)
- ウ どちらかといえば継続を希望しない . . . 6 (11.3%)
- エ 継続を希望しない . . . 7 (13.2%)
- オ どちらともいえない . . . 11 (20.8%)
- 無回答 . . . 3 (5.7%)

問8. 今回の大地の芸術祭に関わった集落・町内として、大地の芸術祭の運営のあり方や今後の方向性などに対し、ご意見やご要望がありましたらご自由にお書きください。

- ・期間中の賑わいは何だったのか。今はどこを見ても人がいない。全体的に見ればプラスになったのはごく一握りの人で大多数の人には迷惑になっても歓迎しないのではないかと。費用もかなりのものと聞いている。経済効果がどれ位のものか調査して公表したら、それが一番の判断材料になると思います。
- ・会場の管理がもう少し手軽にできるようにして、担当者の負担をなるべく軽減し、誰でも気軽に交代できるようにしてもらいたい。展示・公開に併せて、地元の農産物なども、少し販売できるような企画をする必要を感じた。次回の課題にしたい。
- ・今後は津南町単独の運営で継続していくか、または中止する。

- ・第3回をもって県の支援は打ち切りになるそうですが、何らかの形で諸官庁からの支援も継続してもらいたいです。当然、地元住民は地域の持つ力、他力本願でなく（自力、自律）でしてありますが、まだ二回目の経験ですので…。そして、菊池歩さんから再度来て頂き、一緒になって作品活動を中平住民は求めています。そして、十日町地域広域事務組合の皆に、長年、携わっていただき、縁の下力になってもらったのを心より感謝申し上げます。ご苦労様でした。
- ・第3回目にして初めて地域として関わってみて、芸術祭に対する関心が高まったと思います。（一部の人は今迄にも関わってたけれど…）今後もどんな事でもいいから（会場、作品、イベント、手伝い）関わって行きたいと思います。ぜひ第4回の開催を希望しています。
- ・こへびの学生はがんばったと思う。しかし、請け負った会社のこへびに対するフォローが疑問に思う。作品を作った作家の中に後片付けなどの悪い人もいた（良い人もいたが）
- ・町内としても喜んでいますが、ただお願いすることがあるとすれば、最終日もしくは後に作家の方が町内の代表の方にでも一言あってほしかった。
- ・第3回芸術祭にして初めての作品設置が、一気に6作品できた戸惑いもあったが、多くの来訪者に地域に賑わいが生まれた。作品設置により環境が豊かになった。高齢者多住地域として制作、設置への協力は消極的であるが、芸術祭継続には望む所がある。
- ・全国の大学芸術学部系に場所を提供して競争（コンクール）させれば毎回、継続的に芸術祭が実行されると考える。大学生ならばボランティアで一生懸命夏休み中を動いてくれると考える。
- ・作品の盗作問題で公開が中断してしまったことは、地域のイメージダウンにもなってしまった。信用できる作家を紹介していただきたかった。看板を置いたにもかかわらず、違法駐車が多く、大変な迷惑をかけてしまった方がいた。土曜、日曜は誘導の人を公開時間に置いた方が良かったのでは。
- ・1回に30億円も出費がある様ですが、もっと他に、たとえば病院（医療）などにまわしてもらいたい。
- ・作品制作者（関係者）から町内に連絡がなかったように思われる。連絡があれば作品制作にも協力できるかも。
- ・作家が来日できなくなり、結果的に未完成で終わってしまい、協力していただいた集落の人達に申し訳なかった。
- ・大変なにぎわいであり、来場者も多数であったと思われるが、地元は何ら利益がなく、全てがボランティアと言うような形であり、町・市としてもその辺をもっと理解して何らかの援助があっても良かったのではないかと思います。
- ・真の芸術たるに堪解いたしておりますが、今後の方向性としては町内・集落内の実用性に向けた対策を考慮してほしい。
- ・市予算は相当計上されているが、作家は費用面で相当難儀をしている様に見える。税金を使うのだから、もっと透明性のある説明が住民に知らされなければ理解が得られないと思う。
- ・特にありませんが、継続を希望する（山間地に）。
- ・1. 作家や学生（25人/回×約2週間）受入施設の問題。集落センターに泊まらざるを得なかった。学生の食事の面倒を見てもらいたい旨の依頼があったが断りました。2. 費用対効果を検証する必要があります。3年間で約80億の経費（住民には使途が見えない。他目的に使用した場合の効果など）
- ・作品はできるだけ恒久作品にした方が良くと思う。通年を通して見て廻れる体制にしてほしい。

当集落に迷って来た人々が多かったので次回には道案内に気を配った方が良いと思う。大変良かったと思います。

- ・地域内の人達が理解し、共感できるような作品の設置を希望します。
- ・集落の人も参加して一緒に芸術を作るのも良いと思います。
- ・外部との交流、人間関係が深まったこと、感謝申し上げます。後世にのこる作品を願えればと思います。

10. 10年間のデータ

	第1回 (H10～H12)	第2回 (H13～H15)	第3回 (H16～H18)	合計 (H10～H18)
1. 入場者数 (人)	162,800	205,100	348,997	716,897
作品鑑賞 イベント	132,400	193,400	334,505	660,305
	30,400	11,700	14,492	56,592
2. こへび隊登録数 (人)	800	771	930	2,501
3. こへび隊延人数 (人)	9,440	(推計) 2,000	2,500	13,940
4. 寄附、協賛数 (件)	9	26	42	77
5. 寄附協賛金額 (千円)	13,000	9,689	211,400	234,089
6. 経済波及効果(百万円)	(12,758)	14,036(18,840)	5,681	
建設投資 消費支出	(10,054)	12,810(13,190)	1,327	
	(2,704)	1,225(5,650)	4,354	

※第1回展及び第2回展の会期後に推計された経済波及効果額(括弧内数値)は、第3回展後の推計された波及効果額と調査機関や推計する際に用いている統計資料の年次などが一部異なるため単純な額の比較は本来適当ではない。また、第2回展の括弧外数値は、第3回展と同様の計算方法で新潟県統計課が参考として推計し直したものである。

11. 越後妻有アートネックレス整備事業・ソフト事業費実績調べ

1 年度別事業費	第1回					第2回					第3回				合 計
	平成9	平成10	平成11	平成12	9～12計	平成13	平成14	平成15	13～15計	9～15計	平成16	平成17	平成18	16～18計	
ステージ基本計画	59,955	—	—	—	59,955	—	—	—	—	59,955	—	—	—	—	59,955
大地の芸術祭実施計画策定	9,975	—	—	—	9,975	—	—	—	—	9,975	—	—	—	—	9,975
大地の芸術祭ソフト事業		39,000	78,000	188,237	305,237	40,015	122,031	196,690	358,736	663,973	69,556	82,138	462,528	614,222	1,278,195
同上 実行委員会	—	—	—	71,470	71,470	—	—	—	—	71,470	—	—	—	—	71,470
緊急雇用（スタッフ支援事業）	—	—	1,000	7,992	8,992	—	—	13,500	13,500	22,492	12,900	—	—	12,900	35,392
普及啓発事業	—	2,000	4,000	4,000	10,000	—	—	—	—	10,000	—	—	—	—	10,000
総合コーディネーター	—	10,000	10,000	10,000	30,000	8,000	10,000	12,000	30,000	60,000	7,500	7,500	12,000	27,000	87,000
ステキ発見事業	—	15,000	8,000		23,000	—	—	—	—	23,000	—	—	—	—	23,000
花の道	—	9,400	10,000	10,000	29,400	5,636	5,885	9,818	21,339	50,739	—	—	—	—	50,739
事務費	353	866	648		1,867	2,349	664	—	3,013	4,880	—	—	—	—	4,880
計	70,283	76,266	111,648	291,699	549,896	56,000	138,580	232,008	426,588	976,484	89,956	89,638	474,528	654,122	1,630,606

※H16・H17は決算、H18は決算見込み

2 年度別財源内訳—県補助金5億円 15年度で終了、16年度から県負担金

	第1回					第2回					第3回				合 計
	平成9	平成10	平成11	平成12	9～12計	平成13	平成14	平成15	13～15計	9～15計	平成16	平成17	平成18	16～18計	
県補助金・負担金	42,169	45,759	66,389	126,000	280,317	33,600	83,148	103,752	220,500	500,817	29,572	32,972	43,856	106,400	607,217
市町村負担金	28,114	30,507	44,259	84,000	186,880	22,400	55,432	69,168	147,000	333,880	46,000	51,000	72,250	169,250	503,130
緊急雇用補助金	—	—	1,000	7,992	8,992	—	—	13,500	13,500	22,492	12,900	—	—	12,900	35,392
負担金・補助金 小計	70,283	76,266	111,648	217,992	476,189	56,000	138,580	186,420	381,000	857,189	88,472	83,972	116,106	288,550	1,145,739
共通パス販売収入	—	実行委員会収入		41,940	41,940	—	—	43,000	43,000	84,940	—	—	143,110	143,110	228,050
寄付金	—	実行委員会収入		13,000	13,000	—	—	2,440	2,440	15,440	—	2,068	211,400	213,468	228,908
その他国・県負担金補助				—	—	—	—	—	—	—	—	—	3,197	3,197	3,197
雑入	—	実行委員会収入		16,530	16,530	—	—	148	148	16,678	685	2,306	12,936	15,927	32,605
繰越金等	—	—	—	2,237	2,237	—	—	—		2,237	799	1,292	4,056	6,147	8,384
事業収入等 小 計	0	0	0	73,667	73,707	0	0	45,588	45,588	119,295	1,484	5,666	374,699	381,849	501,144
計	70,283	76,266	111,648	291,699	549,896	56,000	138,580	232,008	426,588	976,484	89,956	89,638	490,805	670,399	1,646,883

※H16・H17は決算、H18は決算見込み

16,277
事業費との差額は、繰越見込み

12. 越後妻有アートネックレス整備事業・ハード事業費実績調べ

1. 年度別事業計画

単位：千円

ステージ名	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	10～15計	平成16	平成17	平成18	16～18計	10～18計	備 考
十日町ステージ	地総債事業 過疎債事業 計		506,640	930,074	1,271,544	599,018	3,307,276					3,307,276	テーマ「妻有の市」 越後妻有交流館、交流広場、駐車場
川西ステージ	地総債事業 過疎債事業 計	208,313	145,342	231,722	5,340	14,967	605,684					605,684 605,684	テーマ「新田園都市づくり」 丘、山、林、谷のテラス、物語の道
津南ステージ	地総債事業 過疎債事業 計												テーマ「縄文とあそび」 縄文展示体験館、縄文体験、公園
中里ステージ	地総債事業 過疎債事業 計	4,998	29,070				34,068 34,068					34,068 34,068	テーマ「信濃川物語」 信濃川資料館、信濃川ウォーターフ ロント園地
松代ステージ	地総債事業 過疎債事業 計	4,935	79,412	147,859	298,225	630,030	302,457 302,457	1,462,918 1,462,918				1,462,918 1,462,918	テーマ「雪国農耕文化村」 文化村センター、文化村、散策路、 歩行者横断橋
松之山ステージ	地総債事業 過疎債事業 計	3,097	63,148	69,402	193,508	411,000	197,340 197,340	937,495 937,495				937,495 937,495	テーマ「森の学校」 交流と賑わいのエリア、アートのエ リア、定住ゾーン広場
合 計	地総債事業 ① 過疎債事業 計 ②	221,343 221,343	316,972 316,972	448,983 448,983	497,073 497,073	1,055,997 1,055,997	499,797 499,797	3,040,165 3,040,165				3,040,165 3,040,165 6,347,441	

※すべて若者定住促進緊急プロジェクト事業で計画。

2. 若者定住促進緊急プロジェクト事業計画

単位：千円

事業内容	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	10～15計	平成16	平成17	平成18	16～18計	10～18計	備 考
地域総合整備事業債対象事業費	中核施設分 ③ その他の特別分 計 ④		506,640	930,074	1,271,544	599,018	3,307,276					3,307,276	十日町ステージ
過疎債対象事業費	⑤	221,343	316,972	448,983	497,073	1,055,997	499,797	3,040,165				3,040,165	川西、松代、松之山ステージ
合 計	⑥	221,343	316,972	448,983	497,073	1,055,997	499,797	3,040,165				6,347,441	

3. 年度別財源内訳

単位：千円

事業内容	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	10～15計	平成16	平成17	平成18	16～18計	10～18計	備 考
地域総合整備事業債	中核施設分 ⑦ その他の特別分 計 ⑧		430,600	743,000	1,080,900	509,100	2,763,600					2,763,600	⑦=③×0.85 ⑧
過疎債	⑨		430,600	743,000	1,080,900		2,763,600					2,763,600	⑨=⑦+⑧
その他起債	⑩	220,000	315,600	438,900	456,600	994,800	471,700	2,897,600				2,897,600	⑩
県補助金（事業費分）	⑪												⑪=(④-⑨)×1/2
	⑫		42,608	62,018	95,322	44,959	244,907					244,907	⑫=(④-⑨)×1/2
市町村負担金	⑬	1,343	1,372	43,515	165,529	156,519		441,334				441,334	⑬=②-(⑨+⑩+⑪+⑫)
合 計		221,343	316,972	448,983	497,073	1,055,997	499,797	3,040,165				6,347,441	

13. 大地の芸術祭に係る国・県の事業一覧

県地域戦略プラン

単位:千円

事業名	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	計
道路改築 市道高山太子堂線			130,000							130,000
道路改築 国道353号 中里村 拡幅		183,400	130,000	191,000	104,000					608,400
道路改築 国道117号津南町大倉バイパス		50,000	90,000	172,000	100,000	141,000				553,000
特一国道252号 川西町上野 拡幅		226,000	60,000	100,000	90,000	84,000				560,000
道路改築 国道253号 松代道路		450,000	350,000	200,000						1,000,000
道路改築 国道353号松之山バイパス		660,000	60,000	11,000						731,000
合 計		1,569,400	820,000	674,000	294,000	225,000				3,582,400

越後妻有アートトリエンナーレ支援事業(県単公共)

単位:千円

事業名	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	計
道路改修 松代松之山線(松之山町)				74,300	111,000	417,000				602,300
道路改修 石黒松代線(松代町)				117,500	56,300		11,472			185,272
道路改修 五十子平真田線(松代町・松之山町)				57,600	71,700		23,613	14,700	6,809	174,422
ポケットパーク整備 14箇所				18,000	209,500	40,600				268,100
ポケットパーク整備 6箇所							26,639	172,117		198,756
サイン看板整備 40箇所					8,100	23,000				31,100
合 計				267,400	456,600	480,600	61,724	186,817	6,809	1,459,950

国・県の直轄・補助事業

単位:千円

事業名	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	計
国道253号道路改良(吉田トンネル工事)十日町	614,000	365,000	70,000							1,049,000
信濃川カントリーパーク整備(中里村)			22,000							22,000
洪海川ふるさと県単(松代町)	58,000	58,000								116,000
森林空間総合整備事業(松之山町)	36,200	56,700	106,000	23,900	100					222,900
ふれあいの場共同整備事業(中里村)		25,000	15,000							40,000
ふれあいの場共同整備事業(川西町)		28,000	15,000							43,000
松代城跡公園キャンプ場公衆トイレ整備(松代町)			16,900							16,900
県道松之山温泉道路改良事業(松之山町)	63,000	63,000	110,000							236,000
松之山温泉観光施設整備事業(松之山町)			39,400							39,400
信濃川護岸工事(中里村)		47,200								47,200
下条砂防公園(十日町市)	60,000									60,000
中山間地域観光支援モデル事業(ポケットパーク松代町)				4,800	75,700	12,900				93,400
十日町ステージ支援道路整備事業(十日町六日町線)				65,000	270,000	170,000	171,670	64,000		740,670
松之山ステージ支援道路整備事業(松代松之山線)				65,000	135,000	120,000	133,000	113,455		566,455
ゆくらの原っぱ水辺公園事業(中里村)				17,200	108,600	85,000	5,600			216,400
整備事業(十日町市・真田高島線)						100,000				100,000
観光振興支援事業(川西町・ナカゴ公園)						21,100				21,100
大地の芸術祭支援事業(松代松之山線)								50,000		50,000
地方特定道路整備(松代松之山線)									18,000	18,000
合 計	831,200	642,900	394,300	175,900	589,400	509,000	310,270	227,455	18,000	3,698,425
総 計	831,200	2,212,300	1,214,300	1,117,300	1,340,000	1,214,600	371,994	414,272	24,809	8,740,775

14. ステージ施設利用者調べ

1 十日町ステージ(越後妻有交流館)キナーレ

年度	施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	備 考
15年度	きもの歴史館				1,395	1,182	415	645	413	107	144	602	294	5,197	H15・7月オープン
第2回	体験工房館				668	956	154	190	205	62	319	267	239	3,060	
芸術祭	明石の湯				6,162	12,776	12,357	7,181	8,020	7,856	10,624	9,936	8,344	83,256	
	計				8,225	14,914	12,926	8,016	8,638	8,025	11,087	10,805	88,77	91,513	
16年度	きもの歴史館	435	974	437	284	695	823	1,404	28	38	21	228	122	3,657	
	体験工房館	197	508	325	510	897	285	315	84	130	56	207	79	5,425	
	明石の湯	8,134	9,849	6,949	8,723	10,878	8,541	6,698	11,762	10,480	11,260	10,393	10,175	113,842	
	計	8,766	11,331	7,711	9,517	12,470	9,649	8,417	11,874	10,648	11,337	10,828	10,376	122,924	
17年度	きもの歴史館	118	236	266	432	362	746	1,486	131	18	84	346	207	4,432	
	体験工房館	116	342	311	546	915	324	263	193	37	60	180	180	3,467	
	明石の湯	10,630	10,376	8,078	9,775	10,510	8,728	8,936	8,135	8,796	11,563	10,334	9,722	115,583	
	計	10,864	10,954	8,655	978	11,787	9,798	10,685	8,459	8,851	11,707	10,860	10,109	123,482	
18年度	きもの歴史館	158	375	220	1,155	4,923	2,258	1,333							
第3回	体験工房館	212	297	196	490	971	460	262							
芸術祭	明石の湯	9,555	10,345	8,497	9,995	13,251	10,647	9,326							
	計	9,925	11,017	8,913	11,640	19,145	13,365	10,921							

2 川西ステージ(光の館)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	備 考
12年度	第1回芸術祭				1,879	6,766	4,010	266	274	74	50	71	111	13,451	12年7月オープン
13年度		252	207	212	352	505	329	346	308	124	107	60	163	2,965	
14年度		272	482	350	337	580	423	322	283	145	133	87	198	3,642	
15年度	第2回芸術祭	193	319	318	2,111	8,650	3,407	483	366	169	170	184	247	16,617	
16年度		184	457	594	367	672	426	208	0	0	65	45	51	3,069	
17年度		135	257	259	259	572	468	361	298	131	107	72	190	3,109	
18年度	第3回芸術祭	168	425	262	2,183	8,901	5,718	450							

3 松代ステージ(まつだい雪国農耕文化村センター)農舞台

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	備 考
15年度	第2回芸術祭				3,199	14,560	5,526	635	549	213	166	246	351	25,445	15年7月オープン
16年度		315	974	602	534	1,626	658	367	240	289	301	109	190	6,205	
17年度		320	965	492	478	765	414	547	939	283	110	263	539	6,115	
18年度	第3回芸術祭	416	882	627	3,452	15,494	11,427	1,133							

4 松之山ステージ(越後松之山「森の学校」)キョロロ

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	備 考
15年度	第2回芸術祭				2,625	16,069	5,498	2,576	1,777	435	439	483	428	30,330	15年7月オープン
16年度		884	2,454	1,247	1,746	3,822	1,544	1,260	654	345	421	367	417	15,131	
17年度		659	2,327	1,654	2,734	4,008	1,527	1,842	1,022	266	257	347	555	17,198	
18年度	第3回芸術祭	507	2,358	1,774	4,423	20,634	12,044	2,512							

15. 大地の芸術祭ステージ・恒久作品維持管理費調べ

		平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	合計
十日町エリア	キナーレ維持管理費	0	0	0	4,261	48,920	48,445	48,046	149,672
	地震災害						4,242	15,910	20,152
	恒久作品	0	92	92	92	92	4,239	478	5,085
	地震災害						38	1,166	1,204
	合 計	0	92	92	4,353	49,012	56,964	65,600	176,113

※18年度アスファルトスポット修理1,165,500円克雪維持管理課

		平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	合計
川西エリア	光の館維持管理費	30,193	33,179	27,400	30,404	8,841	4,542	7,887	142,446
	地震災害					1,937	2,254		4,191
	恒久作品	1,206	1,377	811	1,774		1,562	1,592	8,322
	地震災害						1,547		1,547
	合 計	31,399	34,556	28,211	32,178	10,778	9,905	9,479	156,506

※18年度中後節黒連絡線14,300千円は含まず

		平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	合計
津南エリア	恒久作品							1,620	1,620
	合 計							1,620	1,620

		平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	合計
中里エリア	河川公園	120	245	245	245	268	495	502	2,120
	恒久作品	480	172	170	2,190	193	501	766	4,472
	地震災害						11		11
	合 計	600	417	415	2,435	461	1,007	1,268	6,603

		平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	合計
松代エリア	農舞台維持管理費	1,276	1,098	875	17,430	24,661	29,177	17,454	91,971
	豪雪災害							2,610	2,610
	恒久作品	156	2	151	1,972	1,057	2,932	3,920	10,190
	豪雪災害							5,067	5,067
	合 計	1,432	1,100	1,026	19,402	25,718	32,109	29,051	109,838

		平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	合計
松之山エリア	キヨロロ維持管理費				26,068	32,200	26,285	25,462	110,015
	「夢の家」・恒久作品	1,737	2,690	1,609	3,488	2,225	2,634	2,725	17,108
	合 計	1,737	2,690	1,609	29,556	34,425	28,919	28,187	127,123

		平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	合計
全域	ステージ維持管理費	31,589	34,522	28,520	78,408	114,890	108,944	99,351	496,224
	地震・豪雪災害					1,937	6,496	18,520	26,953
	恒久作品	3,579	4,333	2,833	9,516	2,510	11,878	11,101	46,797
	地震・豪雪災害						1,596	6,233	7,829
	合 計	35,168	38,855	31,353	87,924	120,394	128,904	133,585	577,803

○平成12年度「光の館」「夢の家」オープン、平成15年度「キナーレ」「農舞台」「キヨロロ」オープン